

報 告

太宰府市史編さんの概要

重 松 敏 彦

1 太宰府市史編さん事業の記録

太宰府市の概観 太宰府市は、福岡県の中西部に位置し、北は糟屋郡宇美町、東と南は筑紫野市、西は大野城市と境を接している。市域北端は北緯33°33'22"、南端は北緯33°28'13"、また東端は東経130°34'19"、西端は東経130°28'58"にあって、緯度幅5'9"（南北距離にして8.27km）、経度幅5'21"（東西距離にして9.51km）の範囲に入る。面積は29.61km²で、人口は約6.5万人を擁する。

当市は、古代、この地に太宰府政庁が置かれたことで有名であり、それにともなって水城、大野城、筑前国府、観世音寺などが存在した。さらに平安時代には、この地に配流となった菅原道真の廟所安楽寺（現在の太宰府天満宮の前身）が建立され、以後の太宰府発展の礎のひとつとなった。

近代に入って明治22（1889）年、太宰府・内山・北谷の三か村が合併して太宰府村となった。また同年、坂本・国分・観世音寺・水城・通古賀・片野・大佐野・向佐野・吉松の九か村が合併して水城村が誕生した。その後、明治25年の町制施行にともない太宰府村は太宰府町となり、昭和30（1955）年3月1日には、この太宰府町と水城村が合併して太宰府町となった。そして、昭和57（1982）年4月1日の市制施行にともなって太宰府市が誕生することになる。ちなみに『太宰府市史』の初巻、考古資料編は、市制施行10周年にあわせて、平成4（1992）年4月に刊行されたのである。

太宰府地域史研究の動向 太宰府の地域史研究については、江戸時代以来の蓄積がある。まず、福岡藩による地誌編さんでは貝原益軒（1630－1714）の『筑前国続風土記』があり、これに太宰府政庁跡をはじめとする史跡や天満宮などに関する詳細な記述がみえる。こうした記述はさらに、加藤一純（1721－1793）・鷹取周成（1735－1807）の手になる『筑前国続風土記附録』や青柳種信（1766－1835）を中心に編さんがなされた『筑前国続風土記拾遺』に受け継がれている。たしかにこれらの書物において、太宰府地域が占める割合は大きい。しかし、これらは筑前国全体に関するものであり、太宰府地域のみを対象としたものではない。その意味では青柳の『太宰府志』などは、特に古代の大宰府を研究対象とした著作の中では比較的早い時期に属するといえる。また近世後期になると、伊藤常足（1774－1858）が『太宰管内志』を著している。これは太宰管内、すなわち九州全体を分析対象としたものであるが、この常足もまた『太宰府徴』という書物を著しておりやはり古代の大宰府を独自の研究対象としている。ほかに上野勝従（1797－1866）の『太宰府考』、竹田定簡（1815－1889）の『太宰府備考』などがあり、これらも古代の大宰府をその主な研究対象とするものであった。

ところで、川添昭二氏によれば、近世における太宰府研究は、ほぼ次の三つに整理できるという。すなわち、

- ①古代の大宰府をめぐる問題
- ②菅原道真・太宰府天満宮とそれらに関する問題
- ③高橋紹運・岩屋城合戦をめぐる問題

がそれである。このうち、①についてはすでに述べたとおりであるが、②についていえば、貝原益軒に『太宰府天満宮故実』という著作がある。また、③の高橋紹運や岩屋城合戦について教本的な位置をしめているのが伊藤一蓑の著した『高橋（紹運）記』であるといわれる。

ついで、明治時代における太宰府研究の特徴としては、

- ①福岡藩幕末維新史研究の一環として「五卿」の研究・顕彰が盛んに行われたこと
- ②近世太宰府研究の継承・発展が強く意識されていること
- ③菅公一千年祭（明治35〔1902〕年）を契機として、菅原道真の伝記が多数刊行されたこと
- ④菅公一千年祭当時、近代都市として「発展」を目指す福岡市の自画像に古代大宰府（および中世博多）の歴史が重ねられていったこと

があげられるという。①については、当該期の太宰府研究に中心的な役割を果たした江島茂逸（1842－1912）の初期の著作である『維新起原太宰府紀念編』が代表的なものであろう。②に関しては、江島と高原謙次郎（1837－1916）の共著になる『太宰府史鑑』（明治36〔1903〕年刊行）がある。これは菅公一千年祭に際して刊行されたものである。また、『太宰府小史』（太宰府天満宮、昭和27〔1952〕年）は古代・中世大宰府に関する最初の通史的叙述として位置づけられるが、これは菅公一千五十年祭を記念して刊行されたものであった。

さらに明治末年から昭和戦前期にかけては、道府県史（誌）、市史（誌）、郡史（誌）の編さんが盛行した。明治34（1901）年に編さんを開始した『大阪市史』はその先駆的事業であった。ことに大正後期から昭和初期には、郡制廃止を主たる契機として市役所、郡役所、郡教育会が中心となって、各郡・市において市史（市誌）、あるいは郡誌の編さん・刊行が行われたのである。

市史の必要性 昭和戦前までの福岡県においても市史（誌）、郡史（誌）が数多く刊行されているが、こと現在の太宰府市域（旧太宰府町、旧水城村）を含む筑紫郡に関していえば、『筑紫郡誌』の類はついに編さんされなかったのである。その理由は不明とせざるをえないが、たとえば太宰府市域には全国的にも著名な多くの史跡（大宰府政庁跡・水城跡など）や寺社（観世音寺・太宰府天満宮など）があり、これらの歴史をまとめることには多大な時間と労力が必要とされ、困難な作業が伴うと考えられたからかもしれない。

しかしそうした状況の中で、町として太宰府の歴史をまとめようという動きがあったことも見逃せない。それが明治45（1912）年から2期8年間にわたって町長を務めた古川勝隆（1865－1925）による『太宰府町史』編さんの構想であった。

九州大学農学部図書室には「宰府社領分田畠名寄帳」・「御蔵納分田畠名寄帳」（安政3〔1856〕年の年紀あり）と題する太宰府関係の史料が架蔵されている。その奥書には次のように記されているのである。

太宰府町史資料として永遠保存すべきもの也

大正四年六月十六日

町長 古川勝隆識

これに関連して、武谷水城（1852－1939）が著した「故幹事古川勝隆君小伝」（『筑紫史談』第35号、大正14〔1925〕年所収）には、

特に君の努力に依りて地下に埋没せる故人の、為めに世に紹介せられしもの少なからず。名君・忠臣・孝子・節婦・義僕・学者・名士、其の他の綱目に分類し、全県下各方面の人を網羅し蔚然たる大冊を成せり。又太宰府自治史の稿あり。

という注目すべき記述がある。ただ、残念ながら現在のところ、古川が町長を務めた大正期前半に町史編さんが行われていた、あるいはそういった計画があったということについて、確証は得られていない。しかしいずれにせよ、そうした構想が古川個人の中にあったことは間違いなさだろう。

この町史編さんが具体的な問題として浮上してくるのは、ずっと遅れて、昭和54（1979）年のこ

とである。すなわち、町議会における町史編さんに関する質疑（安恒清左衛門議員質問）がそれである。これによれば、この時構想された太宰府町史は、近代史の編さんであり、明治以降の太宰府町の発展、町勢の変遷に重点を置くものであった。翌昭和55年にも、安恒議員による同様の質問が行われた。これに対して当時の有吉林之助町長は、市制の問題も考える時期に至っており、その編さん事業については市制施行後に取り組みたい、との答弁を行っている。

（１）編さん事業の開始

市史編さん委員会の発足　すでに述べたように、昭和57（1982）年4月、市制が施行され、太宰府市が誕生し、初代市長には有吉林之助氏が就任した。有吉市長は、先述の答弁の通り、同年6月、市史編さんに関する検討を始めた。昭和60年には、当時の今村覚助役を会長とする市史編さん委員会が発足し、3月18日、第1回編さん委員会が開催された。当初、市史編さん事業は、町議会における議論を承けて行政史編さんとして検討が進められていたが、藤井功副会長の提言によって、通史（原始・古代～近現代）編さんの方向で再検討されることとなった。以下に、市史編さん委員会規則、および市史編さん要綱（当初案）を掲げておく。なお、編さん委員会のメンバーについては「表6 市史編さん委員会名簿」を参照されたい。

○太宰府市市史編さん委員会規則（昭和60年10月1日 規則第15号）

改正 昭和62年9月1日規則第13号 平成2年6月30日規則第13号

（目的）

第1条 この規則は、太宰府市附属機関設置に関する条例（昭和60年条例第17号）の規定に基づき、太宰府市市史編さん委員会（以下「委員会」という。）を設置し組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

（職務）

第2条 委員会は、次の各号に掲げることを行う。

- （１）市史編さん計画の立案及び決定
- （２）市史編さん資料の収集及び調査研究
- （３）その他必要と認める事項

（組織）

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、学識経験者、助役、及び職員のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

（任期）

第4条 委員の任期は、第2条の職務が終了するまでとする。ただし、職員にあっては、その職を離れたとき委員の職を失うものとする。

（会長及び副会長）

第5条 委員会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長は、助役とし副会長は委員の互選によってこれを定める。

3 会長は、会務を総理し委員会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるとき又は、会長が欠けたときはその職務を代行する。

（顧問）

第6条 委員会に顧問を置くことができる。

2 顧問は、市長が委嘱する。

（平2規則13・追加）

（会議）

第7条 委員会の会議は、会長がこれを招集する。

2 会長は、必要があると認めるときは関係者に会議への出席を求め、説明又は、意見を聴くことができる。

（平2規則13・旧第6条繰下）

（編集委員）

第8条 第2条の職務を専門的に資料収集、調査、執筆及び編さん等をするため委員会に編集委員を置く。

2 編集委員は、委員会の委員その他の者のうちから、市長が委嘱する。

3 編集委員の中に、委員長及び副委員長2名を置くことができる。

4 委員長及び副委員長は、編集委員の互選によってこれを定める。

5 編集委員会は、委員長が招集し委員長が議長となる。

（昭62規則13・追加、平2規則13・旧第7条繰下）

（庶務）

第9条 委員会の庶務は、企画課においておこなう。

（昭62規則13・旧第7条繰下、平2規則13・旧第8条繰下）

（委任）

第10条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

（昭62規則13・旧第8条繰下、平2規則13・旧第9条繰下）

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和60年3月1日から適用する。

附 則（昭和62年規則第13号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成2年規則第13号）

この規則は、公布の日から施行する。

○太宰府市史編さん要綱（当初案）

第1 太宰府市史編さんの趣旨

太宰府市のよりよき発展は、私たちの祖先が歩んだ過去の足跡を正しく認識するとともに、私たちがたゆまぬ努力を積み重ねることによって培われるものである。

そのため、本市は市民の郷土に対する理解を深め、将来の市発展と市民文化の向上促進を図るために市史を編さんするものである。

したがって、市史のもつべき要件としては、現在の太宰府市が形成される過程を克明に調査して正確にとらえ、本市の歴史的な性格、時代的特徴及び文化の経緯を明らかにして、これを平易に記述し、さらに、あまねく収集した郷土の歴史的資料（史）料を数多く収録して、永く後世に伝えられるものでなければならない。

第2 編さんの基本方針

前記の目的を達成するためには、本市の現状を認識し、将来への展望をもつため市民の生活文化について、原始古代から現代に至る歴史的な事実を明らかにして、市民生活及び行

政施策の指標となるよう編さんするものとする。

- (1) 通史編については、市民一般に広く読まれるようにするために、平易・簡明な記述をし、市民に容易に理解されるように努めるものとする。
- (2) 史料編については、重要史料を網羅するように努めるものとする。
- (3) 市史編さんの過程においては、市民不在の市史づくりとならないよう十分に配慮するものとする。

第3 構成等

(1) 構成

市史は通史編と史料編に分けて編さんするものとする。(7巻)

ア 通史編(3巻)

原始古代から現代にいたるまでの先人のあゆみを実証的、客観的に考察し、叙述を平易にして具体的かつ総合的に史実をとらえるようにする。また、写真・図版等を多く挿入し、興味深く理解でき、市民としての自覚と誇りをもち、郷土愛を養うことができるものとする。

(ア) 自然・地理

(イ) 考古・古代・中世

(ウ) 近世以降

イ 史料編(4巻)

史料そのものは、多くの人々に難解であることを免れないので、図版を多くすることや必要な注解を施して、少しでも親しみやすいものとする。

(ア) 民俗・地名(小字・俗称含)

(イ) 考古・歴史

(ウ) 美術・工芸・建築

(エ) 文献・史料・年表

(2) 体裁

ア 判 型 A5判

イ 頁 数 通史編及び史料編とも約700-1000頁とする。

ウ 活 字 明朝体で通史編9ポイント、注釈8ポイント、紙質は書籍用上質紙

エ 装 丁 布製・函入

(3) 発行部数

通史編を3000部、史料編を1500部とする。

(4) 編さん年次計画

昭和60年度を初年度とする10年間とし、市制施行10周年までに初巻を発刊する。

市史編集委員会の発足 その後、昭和62(1987)年、当時九州大学文学部教授であった川添昭二氏を委員長とする太宰府市史編集委員会が発足し、同年4月25日、第1回の編集委員会が開催されたのである(編集委員会の記録は表5参照)。この編集委員会においても、市史の構成について検討が重ねられ、以下に掲げる12巻となった。

考古資料編、民俗資料編、美術工芸・建築資料編、古代資料編、中世資料編、近世資料編、近現代資料編、文芸資料編(資料編計8巻)、通史編第1巻(自然・原始・古代)、通史編第2巻(中世・近世)、通史編第3巻(近・現代)

最終的には、これらに自然地理資料編（のちに環境資料編と改称される）、および通史編別編が加えられて、全13巻14冊の構成となったのである。

（２）資料調査・収集および整理・保存

資料の調査・収集 市史編集委員会の発足によって、市史編さんに向けての資料調査・収集が本格的に開始された。以下に、その具体相を分野別に整理して示しておく。なお、これらの資料調査の中には、今後も継続的に進めていくべきものが少なくない。それらについては、調査項目末尾に「継続」ないしは「継続調査」と記した。

【考 古】

- ・ 岩屋谷磨崖の地形測量調査
- ・ 有智山城の実測調査
- ・ 九州大学考古学研究所蔵の太宰府市出土遺物（太宰府・観世音寺・鼓石・来木・成屋形など）の調査
- ・ 太宰府郭内外寺院出土瓦塼の実測調査
- ・ 佐賀県基山町瀧光徳寺所蔵太宰府出土鬼瓦・文様塼の実測調査
- ・ 関東・関西への流出考古資料の調査
- ・ 東京国立博物館所蔵経筒・青白磁水注の実測調査、写真撮影
- ・ 関連文献の収集（継続）

【民 俗】

- ・ 聞き取り調査（継続）
北谷・内山・松川・高雄・横嶽・観世音寺・坂本・通古賀・片野・国分・水城・吉松・大佐野・向佐野・五条・新町・大町・馬場・連歌屋・三条の20地区
- ・ 水城老松神社宮座、北谷宮座の調査
- ・ 天満宮社家小野氏旧宅の調査

【環 境】

- ・ 太宰府市域における環境全般のデータ収集・解析（継続調査）
- ・ 航空写真の収集
- ・ 地形図の収集
- ・ 地質調査サンプル分析
- ・ ボーリング資料の収集
- ・ 有智山城の黄砂層・火山灰の解析
- ・ 太宰府市・筑紫野市における地質調査・火山灰鑑定
- ・ 気象調査（徹夜観測による）
- ・ 太宰府市およびその周辺における雨量・水位データ収集
- ・ 市域における気温・降水量の調査
- ・ 水対策関係資料の収集・解析
- ・ 井戸の分布調査
- ・ 植生調査
- ・ 市域内における現存植生区分および群落構造調査
- ・ 市域内における動物相および双翅類昆虫の定期調査

- ・市民への小動物に関するアンケート調査
- ・山林利用に関する聞き取り調査
- ・土地利用に関する聞き取り調査
- ・水利関係の聞き取り調査、およびそれに基づく水利図の作成
- ・九州大学農学部所蔵旧太宰府村・北谷村字図の調査
- ・明治期および現代の土地利用図の作成
- ・太宰府旧蹟全図（北図・南図）の調査、および翻刻
- ・太宰府市域植生図の作成
- ・太宰府市域動物分布図の作成
- ・太宰府市域地形図、地質図の作成

【文 芸】

- ・太宰府関係近世紀行文の収集、および翻刻（継続）
- ・国文学研究資料館における調査
- ・古代・中世の大宰府関係文芸史料の収集（継続）
- ・太宰府天満宮所蔵文芸史料の調査・収集・翻刻（継続）
- ・吉嗣拝山『太宰府廿四詠』の撮影・翻刻

【建 築】

- ・太宰府市域所在の建築物（寺社・民家等）調査（継続調査）
- ・横嶽崇福寺茶室・庭園調査
- ・光明寺の調査
- ・北谷地藏堂の調査
- ・蔵司跡の調査
- ・観世音寺・戒壇院の調査
- ・民家調査（新町・吉松）
- ・太宰府天満宮参道沿い民家の調査
- ・天満宮社家の調査
- ・中西家調査
- ・太宰府天満宮絵図等の写真による収集
- ・太宰府天満宮境内図（応永古図・重文古図）の調査
- ・太宰府天満宮摂末社等の調査

【美術工芸】

- ・太宰府天満宮、竈門神社、観世音寺、国分寺・戒壇院・西正寺等の美術・工芸品の調査、写真による資料収集（継続）
- ・九州大学文学部美学・美術史研究室所蔵太宰府天満宮工芸品写真資料の収集
- ・吉嗣家資料（画稿・文書・典籍）の調査、整理（継続）
- ・萱島家資料（画稿）の調査（継続）
- ・安楽寺天満宮より流出の仏像その他の調査（飯塚市・甘木市等）
- ・基山大興善寺の調査
- ・北谷地藏堂仏像の調査
- ・太宰府天満宮絵馬堂の絵馬調査、写真による資料収集

- ・市内神社絵馬の調査、資料収集（継続）
- ・崇福寺の調査
- ・四王寺多聞天の調査
- ・西福寺書籍の調査

【古 代】

- ・古代大宰府関係史料の悉皆調査、収集（継続）
- ・大宰府関係官人補任表の作成（継続）
- ・関連文献の収集（継続）
- ・観世音寺文書の調査、フィルム・写真版等による資料収集（継続）
観世音寺、国立公文書館内閣文庫、東京大学文学部日本史学研究室、宮内庁書陵部、横浜市立大学、根津美術館、東京芸術大学美術館、大東急記念文庫
- ・宮内庁書陵部所蔵『水左記』の写真版による収集
- ・宮内庁書陵部所蔵『渡宋記』のコロタイプ版による収集
- ・東京大学史料編纂所における大宰府関係資料の調査

【中 世】

- ・中世大宰府関係史料の調査およびフィルム、写真・紙焼による収集（継続）
愛知県一宮市妙興寺文書、河上神社文書・武雄神社文書・山代文書・深堀文書、鹿児島県立黎明館所蔵岡元文書、天理図書館所蔵橋村文庫（伊勢御師橋村家伝来資料）、島田文書（京都大学）、宗家文庫および古文書・大山小田文書・築城要家文書（長崎県対馬）、佐賀県光浄寺文書、福井県熊野神社文書、壱岐安国寺文書、佐賀県多久市郷土資料館所蔵後藤文書、鍋島報効会所蔵杠文書、崇福寺文書、徳永文書、藤瀬文書、平井文書、高嶋家平井文書、全長寺文書（滋賀県）
- ・福岡県立図書館所蔵文書の調査
- ・東京大学史料編纂所における調査
- ・山口県文書館・美術館・毛利博物館所蔵大宰府関係資料の調査
- ・国立公文書館内閣文庫における調査
- ・尊経閣文庫所蔵籠手田氏旧蔵故実書の調査
- ・九州大学附属図書館、文学部日本史学研究室所蔵文書、法学部所蔵文書、記録資料館九州文化史資料部門所蔵文書の調査
- ・出光美術館における調査
- ・広島県文書館・広島県立博物館における調査
- ・大分県、名古屋・三島における調査
- ・有智山城址現地調査
- ・関連文献の収集（継続）

【近 世】

- ・福岡県古文書等緊急調査における太宰府関係分の収集・整理およびその現状追跡調査（継続）
- ・大賀文書の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・宮原家文書の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・斎藤家文書の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・安部家文書（修験道関係）の調査・マイクロフィルムによる撮影

- ・市川家文書（大石村関係）の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・古川家文書の調査
- ・岡見文書の調査
- ・山文書の調査
- ・武谷家文書（武谷水城関係）の調査
- ・福岡県地域史研究所所蔵林家文書の調査
- ・御笠郡関係絵図・地図、筑前国関係絵図・地図の調査
国立公文書館内閣文庫所蔵国絵図の調査・撮影
- ・国立公文書館内閣文庫における調査
- ・一橋大学における調査
- ・山口県文書館所蔵五卿関係資料の調査
- ・九州大学・福岡県立図書館所蔵大宰府関係資料の調査
- ・太宰府天満宮における資料調査・マイクロフィルムによる撮影
太宰府天満宮所蔵竹森文書の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・東長寺所蔵戒壇院関係資料の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・聖福寺文書の調査
- ・関連文献の収集（継続）

【近 現 代】

- ・明治期－昭和30年合併までの行政資料（議会議事録・庶務事績等）の調査・マイクロフィルムによる撮影（継続）
- ・筑紫野市所蔵役場関係文書の収集
- ・ふるさと館ちくしの収集古写真資料の調査
- ・福岡県古文書等緊急調査における太宰府関係分の収集およびその追加調査、収集（継続）
- ・太宰府・旧筑紫郡関係新聞記事の収集、整理およびデータベース化（継続）
福陵新報、筑紫新聞、めさまし新聞、筑紫新報、九州日報、福岡日日新聞
- ・九州文化史研究施設における地価帳（明治8年～、御笠郡）・古野家文書等の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・福岡県立図書館所蔵高原文書等の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・九州大学・福岡県立図書館等所蔵布達類の調査
- ・九州大学法学部所蔵水城村関係資料、同行政裁判所判決録の調査
- ・九州大学農学部所蔵産業組合関係資料の調査
- ・九州大学経済学部所蔵資料の調査
- ・国立公文書館における「公文録」「公文類聚」「太政類典」「華族家記」の調査
- ・国立国会図書館における調査
- ・大賀文書の調査
- ・斎藤文書の調査
- ・観世音寺区有文書の調査・マイクロフィルムによる撮影
- ・有吉林之助元市長より寄託された資料の調査
- ・石見良満氏所蔵高鍋日統関係資料の調査
- ・協同組合図書センター（東京）における調査・マイクロフィルムによる撮影

- ・ 藤田家の調査
- ・ 大藪家文書の調査（継続）
- ・ 永田家文書の調査（継続）
- ・ 関連文献の収集（継続）

【別 編】

＊市史編集委員会において通史編Ⅲに《別編》として『「古都太宰府」の展開』と題した一編を追加執筆することが検討され、市史編さん委員会において了承された。これに伴い、以下のような調査等を行った。最終的に、この《別編》は通史編Ⅲより独立して一書を成すこととなり、『「古都太宰府」の展開 太宰府市史 通史編別編』として編集・刊行された。

- ・ 九州大学附属図書館における岩屋城関係、太宰府研究関係、江島茂逸関係資料その他の調査
- ・ 福岡市博物館所蔵青柳種信関係資料の調査
- ・ 大東急記念文庫における太宰府関係資料の調査
- ・ 太宰府天満宮における上野勝従関係資料等の調査
- ・ 大圓寺（福岡市中央区唐人町3丁目）における木下讃太郎関係資料の予備調査（継続）
- ・ 福岡県立図書館における河内資料所収太宰府関係資料の調査
- ・ 柳川古文書館における岩屋城関係資料等の調査
- ・ 市史資料室架蔵資料のうちの《別編》関係資料等の整理
- ・ 戦前期文化財行政資料の整理

【年 表】

- ・ 時代別・分野別に収集された年表資料のデータベース化、および補遺史料収集（継続）
- ・ 『「近世における大宰府研究」年表稿』『近世太宰府文化史年表稿』『近世太宰府年表稿—天正十五年～慶長四年—』（いずれも川添昭二編）の作成、およびデータベース化。

【そ の 他】

- ・ 公文書館関係施設等の先進地視察（継続）
埼玉県八潮市立資料館、広島県立文書館・広島県立歴史博物館、熊本県本渡市（現天草市）立天草アーカイブ

このように市史編さんの過程で調査、収集された史資料はすでに膨大なものとなっており、また関連して作成されたデータベースなども数多く存在する。これらは市民共有の貴重な文化的財産であり、これらを今後のまちづくりにどのように活用していくかが大きな課題であろう。

行政資料の整理と保存 市史編さん事業が進められていく中で、平成5（1993）年に当時の文書課より、保存年限の経過した公文書の取り扱いについて、市史編集委員会に打診があった。それ以前にはこうした保存年限の経過した公文書は廃棄されてきたが、編集委員会においては公文書館法との関連などからこれを保存すべきであると判断し、有馬学編集委員（近現代分野担当）を中心に検討を行った。その結果、同年以降、有馬委員の指導のもとに、市史編さん室が廃棄対象となる保存年限の経過した公文書の保存に取り組むこととなった。そして、本来ならば市史編さん事業終了後に着手する予定であった行政資料の中間整理を、市史編さん事業の委託予算の中で平成16年度に実施することとなった。平成17年度においてもこれを継続して、ここに平成5年度より同17年度に至るまでの行政資料の中間整理は完了し、その数はすでに5万点余り、中間整理用ダンボール箱にして約1600箱にも及ぶ。しかし、廃棄対象となる保存年限の経過した公文書は、今後も毎年発生するのであり、その中間整理及び保存はさらに継続していく必要がある。また、総務課文書法制係に保

管されている文書引継簿のデータ入力も実施し、その際にデータの追加・修正等を行った。このことによって、作成されたデータは精度を増し、より使いやすい庁内各課が共用できるデータとなった。このように市史編さん室には、中間整理の過程における数々のノウハウが蓄積されつつあり、これらを今後、十分に活かして行く必要があろう。また、こうした作業を継続していく中では、文書管理規程等における公文書の取り扱いに関する法的整備も当面の大きな課題といわねばならない。

編集委員会は、こうした公文書館法に基づく行政資料の取り扱いについて、早い段階から検討を始めており、実際に整理・保存を開始する以前の平成2（1990）年の第20回編集委員会において、埼玉県八潮市、神奈川県藤沢市の事例を紹介して市史編さん事業終了後の資料保存・活用について協議を行っている。そして同年には埼玉県八潮市立資料館の視察も行い、また平成14（2002）年に、近隣の先進地視察として熊本県本渡市（現天草市）の天草アーカイブズの視察を行ったことを付言しておく。

（3）市史関連の研究会活動・広報活動

本市史の編集作業推進にあたっては、川添昭二編集委員長各編序文に示されているように、二つの大きな柱があった。一つは太宰府市史研究会であり、いま一つが太宰府講演会、および市史だよりの連載という広報活動であった。特に後者の広報活動は、市民に市史の編集状況を具体的に示し、さらに市史への関心を喚起するためには不可欠の活動であったといえる。まさに「研究と広報は市史編集のかなめ」（川添委員長各編序文）であった。以下に、これらの研究会活動、広報活動のあらましをまとめておく。

太宰府市史研究会 太宰府市史研究会は、編集委員会開催時に各分野の編集委員、および執筆者などに依頼して研究発表を行ったものである。この研究会における報告を通じて、直接に市史編集に備えると同時に、さらにそうした研究成果・調査成果の報告を各分野の編集委員・執筆者参加のもとで行うことで、市史としての共通認識を持つという点においても意義のあるものであった。また異なる時代、あるいは異なる分野から、新たな問題提起がなされることもあり、非常に刺激的な会であったといえる。

すでにふれたようにこの研究会は、編集委員会終了後、原則として2名の研究発表者で行われ、回数は49回に及んだ。基本的には編集委員・執筆者が自らの執筆内容、あるいは問題関心にしたがって研究発表をおこなった。当初の刊行計画に通史編別編が追加されて、平成11年5月以降は、この通史編別編編集刊行のための研究会が同13年7月まで開催された。なお、発表者・題目等の詳細は、「表1 太宰府市史研究会の記録」を参照されたい。

太宰府講演会 太宰府講演会は、広報活動の一環として年4回開催された。市史編さん過程における調査・研究の成果を市民に伝える場であると同時に、市史編さんの進捗状況を周知せしめる場ともなっていた。原則として編集委員・執筆者を講師に招いて行われたが、時には外部から講師を招聘する場合もあった。この講演会も51回を数えた。さらにこのほかに特別講演会として、市制施行20周年記念太宰府講演会、『太宰府市史』全巻完結記念太宰府講演会を開催した。これらについては、後掲（5）その他の関連事業の項でふれることとする。なお、講師・演題等は「表2 太宰府講演会の記録」を参照されたい。

市史だよりの執筆 いまひとつの広報活動として、市史だよりの執筆がある。各分野（考古・民俗・建築・美術工芸・環境・文芸・古代・中世・近世・近現代・編さん室）で分担執筆を行い、市広報誌の毎月15日発行号（ただし1月は15日発行号がないので、年間11回）に連載された。編集委員、

執筆者、市史編さん室嘱託職員がおもにこれを執筆しているが、その時々の問題関心や調査研究の成果が簡潔にまとめられており、短文ながら興味深い内容となっている。執筆者、タイトルなど詳細は「表3 市史だよりの連載」を参照されたい。

（４）市史の刊行

市史本編の刊行 全13巻14冊

すでにふれたように、本市史は、最終的には資料編9巻9冊、通史編3巻4冊、年表編1巻1冊の全13巻14冊が刊行された。以下に、各巻各冊の構成と特色について簡単にまとめておく。

考古資料編 平成4年4月刊行 高倉洋彰・石松好雄編

原始から近世に至るまで、考古学上の資料から復元できる太宰府の歴史像を提示した。「大宰府の成立以前」「大宰府の時代」「中世の大宰府」の3編で構成され、考古学の専門用語をできるだけ使わず、600点に上る写真や図を使って、歴史、文化の流れが分かりやすいように編集されている。太宰府の歴史考古に関する最新の成果が本書に集約されているといえる。

民俗資料編 平成5年4月刊行 佐々木哲哉・森弘子編

本書には、古老たちが大正から昭和初期にかけての時期を中心に語った、記憶の中にある「太宰府」の姿がある。聞き取り調査に協力された話者は300名近くにもおよび、また聞き取り側が市民有志であったことも特色の一つである。民具の調査も含めた聞き取りの成果が、民俗環境・社会伝承・生活伝承・信仰伝承・文化伝承・民俗関係文献の6編に構成されている。

建築・美術工芸資料編 平成10年5月刊行 澤村仁・八尋和泉編

建築編では、太宰府天満宮や観世音寺をはじめとして、古代大宰府政庁の時代から近代に至る各時代の寺社・民家建築、太宰府の町並みなどを紹介している。また美術工芸編では、各寺社の所蔵する仏像・絵図などの美術・工芸品や、斎藤秋圃・吉嗣家・萱島家といった太宰府にゆかりの深い絵師たちの作品などを収録している。本書は多数の写真・図版を用いた「読める資料編」である。

古代資料編 平成15年11月刊行 長洋一編

古代の大宰府は日本における外交・軍事機能の一翼を担うとともに、九州における政治・経済・文化の中心でもあった。そうした大宰府について六国史、法制資料、文芸作品、寺社関係史料などの中から272点を取りあげ、読み下し、注釈、解説、参考文献を付した。また国宝「延喜五年観世音寺資財帳」を全編カラー写真で収め、大宰府関係の木簡についても掲載している。

中世資料編 平成14年10月刊行 佐伯弘次編

中世の大宰府は古代以来の伝統を受け継ぎ、政治の中心的権威を保ちつつ、文化史上も重要な地位にあった。本書は中世大宰府に関わる資料を厳選して収録し、資料に即してその歴史を理解できるようにした。また、収録資料のそれぞれに読み下し・注釈・解説を付し、読者の利用の便を図っている。さらに附編には少武氏の花押集と発給文書目録を収録した。

近世資料編 平成8年3月 中村質・梶原良則編

市史独自の調査によって収集した史料と、関係機関所蔵史料の中から、太宰府地域に関わる未公開のものを厳選し、農村を中心とした地方史料・街道交通に関する史料・太宰府天満宮関係史料・観世音寺や戒壇院に関する史料・幕末に大宰府に滞在した五卿についての記録などを収録している。従来必ずしも明らかにされていない近世大宰府地域の様子的一端が、明らかにされたといえる。

近現代資料編 平成11年1月刊行 有馬学編

本書には、今日の太宰府市がどのようにして成立したのかという観点から、まず明治22（1889）

年と昭和30（1955）年の町村合併に関する史料を収録した。また、明治22年の合併以前の行政の展開を窺い知ることのできる明治初期の布達史料や、22年の合併以降昭和戦前期までの役場行政を考えるための基礎的な史料である議会事務報告史料も収録している。

文芸資料編 平成14年9月刊行 赤塚睦男・山内勇哲編

第一流の文人たちが多く大宰府に集った古代、太宰府天満宮を中心に展開した中世、それらの文芸遺産を継承した近世、太宰府文芸は全国の地域文芸のなかでは突出した豊かさを包蔵している。本書は太宰府に関する貴重な作品群を、古代中世については可能な限り網羅的に、近世については未翻刻作品を精選し翻刻掲載したものである。

環境資料編 平成13年9月刊行 小林茂・磯望・下山正一編

本書は、太宰府市の環境について、地形・地質、動植物、気象・水の需給、農業水利・土地利用、絵図といった様々な角度から調査研究し、その成果を示したものである。渇水や水利など、市民に関心の高い問題についても詳しく検討されている。また、付図11枚をはじめとして多くの図や写真を掲載し、調査研究の成果をビジュアルな形で表現している。

通史編Ⅰ 平成17年3月刊行 高倉洋彰・石松好雄・磯望・小林茂・長洋一編

本書は、環境編・考古編・古代編からなり、各資料編編集の際のデータをもとに、できる限りわかりやすく叙述するよう努めた。また、近年の災害、最新の発掘調査や研究の成果、大宰府史跡を中心とする歴史考古学などにも、十分に意を用いている。

通史編Ⅱ 平成16年12月刊行 佐伯弘次・梶原良則編

本書は、中世から近世を通じた大宰府の全容をはじめて明らかにしたものともいえる。従来、古代が喧伝されている割には中世以降が知られることは少ないが、本書では膨大な史料を用い最新の学説を取り入れて平易な文章で中世・近世の大宰府の歴史を叙述している。

通史編Ⅲ 平成16年9月刊行 有馬学編

本書は、明治維新以降現在に至るまでの太宰府通史のさきがけとなるものである。近代・現代の太宰府は従来あまり注目されてこなかったが、決して豊富とはいえない史料を背景に、最新の研究成果を盛り込みつつ、さらに平易な文書で当該期の歴史を活写している。

「古都太宰府」の展開 通史編別編 平成16年3月刊行 有馬学・日比野利信編

本書は、「古都太宰府」という太宰府市の地域像がどのようにして生まれ、いかに展開したかを明らかにしようとしたものである。さまざまなテーマにそって「古都太宰府」の豊かな歴史が興味深く語られている一書である。

年表編 平成16年3月刊行 佐々木哲哉・森弘子編

本書は古代・中世・近世・近代・現代の五編より構成され、大宰府の起源といわれる宣化天皇元（536）年から、平成15（2003）年3月までの太宰府に関わる約9,000項目を収録している。発掘調査の成果については、遺跡・史跡年表を作成した。また、各項目には典拠となる史料や各資料編の掲載頁を注記し、もっと詳しく知りたい方へのインデックスとなるよう工夫されている。

市史民俗調査報告書の刊行 このほかに、民俗資料編編集のために実施された聞き取り調査を地区別にまとめた報告書『太宰府の民俗（第一集） 水城・国分・坂本』（平成2年）、『太宰府の民俗（第二集） 大佐野・向佐野・吉松』（平成4年）の2冊を別途、刊行した。

（5）その他の関連事業

市制施行20周年記念特別展示・太宰府講演会 平成14（2002）年、太宰府市は市制施行20周年を迎え、

これに伴ってさまざまな記念事業が展開された。市当局の要請に応じて、市史編集委員会においてもこの記念事業に参画することとし、平成12年より協議を開始した。その結果、特別展示と講演会の二つの事業を実施することとなった。

特別展示については、折しも平成13年9月に環境資料編が刊行されたばかりであったので、これに関連したパネル展示を文化ふれあい館において行うこととした。平成14年9月14日（土）より同年10月14日（月）まで開催された特別展示「太宰府一人と自然の風景」がそれである。この特別展示は太宰府市史編集委員会・太宰府市文化ふれあい館の主催で、太宰府市教育委員会の全面的な協力を得て行われたものである。

また講演会は、同年11月23日（土、祝日）、太宰府市中央公民館市民ホールにおいて行われた。市史編集委員会主催、（財）古都大宰府保存協会の協賛のもと、「大宰府史跡と大宰府研究」というテーマで、川添昭二、平野邦雄両氏に講演を依頼した。

『太宰府市史』全巻完結記念太宰府講演会 平成17（2005）年3月の通史編Ⅰの刊行をもって、『太宰府市史』13巻14冊が完結した。市史編集委員会では、これを記念して講演会を開催することとした。同17年6月25日（土）、太宰府市中央公民館市民ホールにおいて行われた。この講演会にあたっては、統一テーマを「みえてきた『太宰府学』—『太宰府市史』全巻完結を記念して—」とし、さらに三つの小テーマを設定した。すなわち、①市史全巻完結と太宰府学、②九州国立博物館と太宰府市史、③太宰府の歴史・文化・環境、である。この小テーマにしたがって、市史編集委員会のメンバーの中から川添昭二氏、高倉洋彰氏、磯望氏に講演を依頼した。

2 市史編さん体制

（1）市史編さん委員会

すでにふれたように市史編さん委員会は、昭和60（1985）年3月に設置された。この委員会においては、当初、編さん要綱の決定、編集委員会委員の選定などを行い、編集委員会発足後は、市史刊行報告、編さん事業経過、および計画の報告を行い、加えて刊行年次計画、編さん事業終了後の体制、また通史編別編の追加刊行などの検討を行い、つねに大局的な立場から編さん事業全体を見通して、その方向性が示されていた。具体的な協議内容等については「表4 市史編さん委員会の記録」を参照されたい。

（2）市史編集委員会

市史編集委員会は、前掲市史編さん委員会の委嘱を承けて、市史編集の実務を担った委員会である。単に編集・刊行に関わることがらのみではなく、それに付随して提起されるさまざまな問題についても、検討、協議された。また、各編集委員は執筆者、および編さん室嘱託職員と協議しながら、市史関連史資料の調査、収集、整理、保存、研究などにあたった。ことに川添昭二編集委員会委員長は、編集委員会の開催に際して、自らの太宰府に関する調査・研究の成果を積極的に提示し、編集委員の注意を喚起するとともに、編集作業の進捗を図った。

編集委員会の協議事項等は、「表5 市史編集委員会の記録」を参照されたい。また、編集委員会のメンバーについては「表7 市史編集委員会名簿」を参照されたい。

（3）事務局（企画課〔のち秘書広報課〕 広報係・市史編さん室）

市史編さん室は、編集委員会、および各編集委員の指示を受けて、実際の資料調査や収集・整理

にあたった。当初は嘱託職員1名であったが、編集委員会発足に伴い、嘱託職員2名となった。その後、編さん事業の進展とともに事務量も増大し、平成2年、平成9年に各1名が増員され、嘱託職員4名体制となった。この間に臨時職員も採用され、平成4年に初巻の考古資料編が刊行されると、その販売事務を含めて2名が置かれた。

編さん室は、当初、企画課広聴広報係に配属され、市史編さん事業委託予算に関する事務処理を初めとして、編さん事業にかかる事務全般は広聴広報係によって行われた。のち市役所本庁の機構改革によって広聴広報係が秘書広報課配属となったことに伴い、編さん室も秘書広報課付きとなった。事務局メンバーについては、「表8 事務局名簿」を参照されたい。

ところで実際の資料調査、収集、整理、研究においては市史編さん室に勤務する調査員（アルバイト）に拠るところがきわめて大きかった。各分野に数名ずつを配し、日常的に市史編さんにかかる資料調査、データベース作成などを行った。これら調査員は、多くが大学の専門課程学生、あるいは大学院在学中であり、それぞれの専門領域の調査を担当した。そればかりではなく、市史の校正作業、各資料編の索引作成作業なども行った。なお、市史各編巻末の「調査員一覧」を参照されたい。

（4）市史編さん関係人名一覧

市史が成るにあたっては、編さん委員会委員、編集委員はもちろんのこと、執筆者を含めて、本当に多くの方々のご協力を得ることができた。ここにそれらの方々のお名前を整理して掲げて、記録に留めておくことにしたい。「表6 市史編さん委員会名簿」「表7 市史編集委員会名簿」「表8 事務局名簿」「表9 市史執筆者一覧」「表10 市史民俗資料編調査員・話者一覧」をそれぞれ参照されたい。ことに、表10に掲げたのは民俗調査における調査員・話者の一覧である。話者はもちろんのことだが、太宰府市史の場合、民俗調査員もそのほとんどが市民で、刊行された当時は市民による手作りの市史として話題となった。こうした市民参加による民俗調査の形態は周辺自治体史の編さんにも踏襲された。

そのほか、市史の編さん過程において多くの方々、また関係諸機関に資料調査、資料提供などで協力をいただいた。それらについては、市史各編巻末の「資料・写真提供者一覧」「協力者一覧」を参照されたい。

（5）市史編さん事業費

総事業費	約829,000,000円
調査費	約232,000,000円
編集費	約293,000,000円
印刷・製本費	約165,000,000円
監修料・原稿料・校正費等	約 63,000,000円
その他（図書・備品費、役務費、委託料等）	約 76,000,000円

3 市史編さん事業の課題

（1）市史編さん事業終了後の体制

市史編集委員会における協議 市史編集委員会では、編さん事業終了後の収集資料等の保存問題について、比較的早い段階から継続的に協議を重ねてきた。一方、市当局においても、第三次太宰府市

総合計画、第四次太宰府市総合計画の中で「市民文化の創造」のひとつに市史編さんを位置づけ、市史編さん過程における収集資料および行政資料の整理・保存・活用、また市史そのものの活用、さらに公文書館構想の調査・研究などの目標を掲げていた。そうした双方の議論の流れを承けて、編集委員会は平成6（1994）年1月「文書館設置に関する要望書」、同13年2月に「市史資料室」（仮称）設置に関する要望書」、さらに同15年8月には「太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）準備室設置に関する提言」を市当局に提出した。平成17年7月には第102回市史編集委員会が開催され、これが実質的に最終の編集委員会となった。ただし決算監査など、若干の事務処理が残されていたため、同年11月、編集小委員会を開催、決算監査、編さん委員会の規則改正に関する協議などが行われた。そして市、および編集委員会において先の要望書や提言をめぐる協議が進められていく中で、編さん事業終了後の体制が固まっていったのである。

市史編さん委員会規則の一部改正 平成18年3月、第27回市史編さん委員会が開催され、ここで編さん委員会規則の一部改正について説明が行われた。

○太宰府市市史編さん委員会規則の一部を改正する規則

（平成18年3月31日 規則第35号）

太宰府市市史編さん委員会規則（昭和60年規則第15号）の一部を次のように改正する。

第2条第2号中「収集」を「収集・整理・保存・活用」に改める。

第2条第3号を第4号とし、第2号の次に、次の1号を加える。

（3）公文書館（アーカイブス）構想の調査研究

第4条を次のように改める。

（任期）

第4条 委員の任期は、2年とし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任をさまたげない。

第8条を次のように改める。

（専門委員）

第8条 第2条の職務を専門的に調査を行う必要があるときは、専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、委員会委員のうちから市長が選出する。

3 専門委員は、当該専門事項が終了したときは解任されるものとする。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○太宰府市市史資料室設置内規

平成17年10月25日

（設置）

第1条 太宰府市市史編さん業務を遂行するにあたり、総務部秘書広報課内に太宰府市市史資料室（以下「資料室」という）を置く。

（業務）

第2条 資料室の業務は太宰府市市史編さん委員会規則（昭和60年規則第15号）第2条に掲げる事項とする。

（事務所）

第3条 事務所は太宰府市文化ふれあい館内に置く。

（職員）

第4条 資料室に、室長、係長、その他必要な職員を置く。ただし当分の間、室長は秘書広報課長、係長は広聴広報係長が兼任する。

(準用規定)

第5条 本内規は、別に定めるもののほか太宰府市の各事務規定を準用する。

附 則

この内規は、平成 年 月 日から施行する。

市史全巻完結によって、編さん事業は一応の区切りを迎え、市史編集委員会も解散することとなる。この事態を承けて、編さん委員会規則の一部改正を行い、これに対応することとなった。その眼目のひとつは、先に述べた太宰府市第四次総合計画の目標にしたがって、編さん委員会の職務を改正した点にある。すなわち、市史編さん資料の収集のみではなく、その整理・保存・活用をも加えたこと、また公文書館（アーカイブス）構想の調査研究を新たに設定したこと、である。いまひとつは専門委員に関する条項を設け、編さん委員会が編集委員会の果たしてきた役割の一端を担うことができるようにしたことである。さらに市史資料室が、その設置内規によって、先の職務を遂行する機関として位置づけられることになった。

(2) 太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）設立に向けて

『太宰府市史』の完結と太宰府学 すでに述べたように、平成17(2005)年3月の通史編Ⅰの刊行をもって、『太宰府市史』全13巻14冊が完結した。この市史編さんは、太宰府市の歴史・文化を集大成する一大修史事業であったと位置づけられよう。一方で、この編さん事業は、いわば「太宰府学」を構築する試みでもあった。ここでいう「太宰府学」については、川添昭二氏が「大宰府を研究対象とする学問体系」とされ、さらに「(太宰府市史が)完結すれば、大宰府にかかわる既往と現在のあらかたが明らかになる。東アジアの中の日本—大宰府を念頭に置いた編纂であり、大宰府学の実践そのものと言ってよい」といわれている。

さて、この市史の完結によって太宰府学のひとつの形が示され、ここに太宰府市の過去を検証し、現在を把握する作業が一応の区切りを迎えたといえる。今後の大きな課題は、このことを礎として、太宰府市の未来をどう展望していくかという点であろう。その方向性のひとつが太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）の設立である。

太宰府市市史資料室における取り組み 前項における太宰府市市史資料室の設置は、太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）設立に向けての一階梯と位置づけられる。今後は、この市史資料室を中心に公文書館設立までの具体的な取り組みを、中長期的な計画のもとに具体化していくことが必要となる。以下、この点について述べておきたい。なお、平成17年11月の第3回編集小委員会において提示された「編さん事業終了後の事業計画について」は、これについて一定の見通しをもっているが、ここではそれをさらに整理しつつ、その流れを追ってみる。

先にふれた「太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）準備室設置に関する提言」は、この公文書館に（1）太宰府学研究センター部門と（2）文書資料部門の2つの部門を設置することを明示している。ここでも、この2部門それぞれに対する今後の取り組みについて整理しておく。

太宰府学研究センター部門 この部門でまず重要なことは、これまで市史編さん室において進めてきた作業を継続的に行っていくことである。収集された史資料の整理保存・調査研究、資料目録・データベースの作成、太宰府関係資料調査などである。目録やデータベースに関しては、市史編集作業の中でかなりの部分の整備が進んでいるが、これを公開するにあたってはできる限りわかりやすく、

また利用しやすくするために用語・フォーマットの統一などが必要となろう。また特に太宰府関係史資料調査では、市内所在資料調査を重点的に行う必要がある。

これに加えて、今後は紀要等の発行による太宰府研究の蓄積、また公民館講座等による地域情報の蓄積、さらにはレファレンスへの対応等を通じて市史における叙述の修正・更新を進めていくことになるだろう。

太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）においてはできる限り、収集された史資料・データベースを公開し、市民をはじめ多くの方々に共有の文化的財産として利用していただくことが重要である。したがって、史資料・データベース公開のための準備を行う必要がある。原文書については原蔵者に対して、また複写資料（フィルム・焼き付け、およびコピー等による収集）については所蔵機関等に対して、太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）における公開・借用・複写等のための許可申請手続きを行い、さらに公開にあたってのルールづくりを行う（この時点で、収集された史資料の中には公開が許可されないものも当然出てくることが予想される）。このことは後述する法的整備と関連するものの、現時点においてもすでに市史掲載写真等について借用申請・転載許可申請等が多く寄せられており、その意味では早急な対応が必要とされているといえる。

また開館にあたっては、管理規程・運営規程・収集資料利用規程等の法的整備が不可欠である。現在、他自治体の事例を参照しつつ情報収集に努めているところである。

そして太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）の開館後、収集史資料およびデータベースの公開を順次進めていくことになるだろう（ただし前述したように、開館に先立って借用・掲載・転載等の許可申請に対応する必要がある）。

文書資料部門 この部門でも、まずこれまでの作業を継続していくことが最も重要である。すなわち、保存年限を経過した文書（以下、有期限文書という）の第一次評価選別、中間整理・保存箱への詰め替え、目録データベースの作成である。こうした作業は毎年繰り返し行われており、恒常的な業務として処理していく必要があろう。

今後のこの部門の取り組みとしては、公文書館全般に関する情報の蓄積とともに、太宰府市固有情報の蓄積が求められよう。市役所内部における有期限文書の作成過程の調査等がそれにあたり、このことは太宰府市における有期限文書の評価選別基準の確立のために不可欠であると考ええる。また永年保存文書については、一部、市史編さんの過程で整理したものもあるが（主として明治・大正・昭和期の太宰府村（町）・水城村の議事録、庶務事績等）、これらについての調査・検討も課題として残されている。

またこの部門でも、太宰府学研究センター部門と同様に公開を原則とすることに変わりはないから、ここでも公開のルールづくりや規程類の法的整備も当然必要となってくる。

最終的には、太宰府市公文書館（太宰府アーカイブ）の開館後に、その体制も鑑みながら、有期限文書の最終評価選別とその公開（永年保存文書の一部を含む可能性もある）を行うこととしたい。

〔付記〕本稿は、通史編Ⅰの刊行によって『太宰府市史』全13巻14冊の編さん事業が完結したことを承けて、事業開始に至る経緯、また事業の概要を記録に留めておくべく作成したものである。したがって、現時点からみればすでに6年以上を経過していることになる。本来ならば、その後の市史編さん委員会（この委員会も平成20年12月より、太宰府市公文書館構想調査研究委員会と改称され、現在に至っている）における議論、および太宰府市史資料室における取り組みも含めて論ずべきところではあるが、それらについては後日を期すこととして、とりあえずほぼ当時の原稿のまま、ここに掲載させていただいた（引用したデータ等についても、当時の原稿のままとした部分がある）。大方のご了解を乞うものである。

（しげまつ・としひこ 太宰府市市史資料室嘱託）

表1 太宰府市史研究会の記録

回数	年月日	題 目	発表者	分 野
1	昭和63年5月7日	大宰府政庁跡の発掘調査について	石松 好雄	考 古
		昭和62年度民俗調査概要	森 弘子	民 俗
2	昭和63年7月16日	齊藤秋圃について	八尋 和泉	美術工芸
		太宰府市史における古建築などの問題	澤村 仁	建 築
3	昭和63年10月29日	中世後期における大内氏と三笠郡	佐伯 弘次	中 世
		大宰府研究史の一斑	倉住 靖彦	古 代
4	平成元年1月14日	太宰府と五卿をめぐる諸問題	梶原 良則	近 世
		筑前竹槍一揆と御笠郡の動向	石瀧 豊美	近現代
5	平成元年6月3日	二万年前の太宰府 ―二日市低地帯の形成史―	下山 正一	環 境
		大宰府における鑄物生産遺跡 ―鉢ノ浦を中心に―	山本 信夫	考 古
6	平成元年7月29日	憶良と大宰府	山内 勇哲	文 芸
		太宰府市の民間信仰	佐々木哲哉	民 俗
7	平成元年10月7日	太宰府における藤末謙初美術	八尋 和泉	美術工芸
		観世音寺・二三の問題	澤村 仁	建 築
8	平成2年1月20日	研究史・征西府	岩元 修一	中 世
		「尊卑分脈」にみえる大宰府官	松崎 英一	古 代
9	平成2年7月21日	思水会と自由民権期の地方政治状況	有馬 学	近現代
		近世における太宰府天満宮信仰の展開について	中村 質	近 世
10	平成2年9月4日	太宰府市における森林植生と史跡群の環境緑化について	井上 晋	環 境
		歌枕の諸問題 ―太宰府の歌枕に即して―	赤塚 睦男	文 芸
11	平成2年11月17日	観世音寺の最近の調査をめぐって	吉村 靖徳	考 古
		太宰府の民家―民俗調査から―	陶山 雪代	民 俗
12	平成3年1月19日	1990年夏期太宰府市史建築調査略報告	澤村 仁	建 築
		調査民家データ	小西龍三郎	建 築
		太宰府の飛鳥・奈良時代の仏像	八尋 和泉	美術工芸
13	平成3年7月20日	武藤資頼の大宰少式任官について	本多 美穂	中 世
		大宰府の成立をめぐる諸情勢	長 洋一	古 代
14	平成3年9月21日	昭和十三年水城村庶務事績に見る国民精神総動員運動	御手洗 清	近現代
		長州出兵と大宰府	梶原 良則	近 世
15	平成3年11月16日	太宰府の都市化と土地利用変化	堤 研二	環 境
		翻刻「太宰府紀行」	板坂 耀子	文 芸
16	平成4年1月18日	太宰府における伝説	高瀬美代子	民 俗
		中国陶磁の窯跡巡り	横田賢次郎	考 古
17	平成4年5月16日	室町時代の少式氏と大内氏 ―蜷川家文書大内教弘条書案の検討―	佐伯 弘次	中 世
		大宰府の都市 ―古代・中世・近世―	宮本 雅明	建 築
18	平成4年7月18日	古代の外交儀礼と太宰府	重松 敏彦	古 代
		刀工金剛兵衛派、博多鑄物師	田鍋 隆男	美術工芸
19	平成4年11月7日	大区小区制に関する史料の紹介	御手洗 清	近現代
		享保の飢饉とその影響	柴多 一雄	近 世
20	平成5年1月16日	太宰府市方言	中村 萬里	民 俗
		太宰府の気象と気候	小林 哲夫	環 境
21	平成5年5月15日	志波地区・大迫遺跡の大規模建物跡	小田 和利	考 古
		齋藤秋圃 ―絵本の画家、秋月藩の画家、太宰府の画家―	小林 法子	美術工芸
22	平成5年9月11日	建築遺跡の解釈について	澤村 仁	建 築
		神家考 ―福岡の宮座組織について―	佐々木哲哉	民 俗
23	平成5年11月6日	南北朝期大宰府の諸問題	岩元 修一	中 世
		大宰府の外交機能について	重松 敏彦	古 代
24	平成6年1月22日	近世における戒壇院支配をめぐる一考察	大賀 郁夫	近 世
		太宰府市内の両生爬虫類の分布	渡部 登	環 境
25	平成6年5月21日	水城村役場行政史料にみる敗戦直後の太宰府	森山 優	近現代
		「太宰府の文学」ということ―『市史文芸資料編』採択外の文芸作品を取りあげながら―	赤塚 睦男	文 芸
26	平成6年9月17日	大宰府出土瓦（鬼瓦・軒瓦）の同范関係について	栗原 和彦	考 古
		太宰府地域の旧暦から新暦への移行期	中島伊佐子	民 俗
27	平成6年11月5日	防人をめぐって	長 洋一	古 代
		安楽寺の謎	澤村 仁	建 築
28	平成7年1月21日	美術工芸品から見た光明（禪）寺	渡辺 雄二	美術工芸
		壇ノ浦合戦について	有川 宜博	中 世
29	平成7年5月20日	太宰府市史近世資料編について	中村 質	近 世
		大区小区制期における布達史料の基礎的研究―宮原家文書の分析を中心として―	日比野利信	近現代
30	平成7年7月15日	平安朝の歌人、二、三について ―『後拾遺集』を中心に―	福田 智子	文 芸
		太宰府市の地形と土地利用の変遷 ―低地の土地条件をめぐる―	磯 望	環 境
31	平成9年1月25日	太宰府の活断層調査について	磯 望	環 境
		天満宮の社領支配をめぐって	御厨 義道	近 世
32	平成9年5月31日	地方官衙の出現と展開―御原郡（小郡官衙遺跡と大刀洗町下高橋遺跡）を中心として―	赤司 善彦	考 古
33	平成9年9月6日	藤原広嗣の乱の再検討	重松 敏彦	古 代
		明治の村の成立に関する覚書	日比野利信	近現代
34	平成10年1月24日	新出少式氏発給文書について	佐伯 弘次	中 世
		太宰府における近世仏師年表（稿）	八尋 和泉	美術工芸

太宰府市史編さんの概要（重松）

35	平成10年5月16日	かまど山の雪	赤塚 睦男	文 芸
36	平成10年9月12日	太宰府の資源利用とその変動過程—山林と水利—	小林 茂	環 境
37	平成11年1月23日	大宰府における所司の成立と展開 上岩田遺跡について	重松 敏彦 中島 達也	古 代 考 古
38	平成11年5月15日	筑紫史談会の研究—成立期を中心に— 大野乗資建碑事件について —昭和戦前期における南朝忠臣顕彰碑と歴史意識— 太宰府天満宮文書の写本について —近代以降を中心に—	日比野利信 梶嶋 政司 朱雀 信城	別 編 別 編 別 編
39	平成11年9月25日	福岡藩慶応元年の政変 —「乙丑の獄」の背景— 「太宰府学」の展開 —高橋紹運・岩屋城合戦をめぐる近世の研究史—	梶原 良則 川添 昭二	近 世 別 編
40	平成11年11月13日	太宰府の観光産業 —その概要・変遷と地理的特徴—（1）太宰府軌道について 説話としての地域史とその語り手 —江島茂逸をめぐる— 絵葉書・観光案内にみる太宰府—作業の途中経過のご報告— 筑前郷土史の成立と太宰府研究の展開 —中間報告—	堤 研二 有馬 学 野口 文 日比野利信	別 編 別 編 別 編 別 編
41	平成12年1月29日	江島茂逸と『維新起原太宰府記念編』 水城顕彰運動の思想と行動 —高鍋日統を中心に—	日比野利信 藤岡健太郎	別 編 別 編
42	平成12年7月22日	菅原道真と太宰府天満宮研究 —貝原益軒著『太宰府天満宮故実』を中心として— 近世「太宰府学」の展開 —福岡藩における古代太宰府研究—	川添 昭二 重松 敏彦	別 編 別 編
43	平成12年9月16日	太宰府博覧会と菅公一千年祭 「古都太宰府」の美術・工芸	日比野利信 八尋 和泉	別 編 別 編
44	平成12年11月18日	近代の地方鉄道と地域構造 —太宰府馬車鉄道を事例として— 木下謙太郎の「郷土史」研究 —大正期における史蹟調査と研究を中心に—	堤 研二 梶嶋 政司	別 編 別 編
45	平成13年1月13日	菅公頌徳と学校教育 —信仰の場としての太宰府天満宮— 戦前期地域における文化財保存行政の展開	森 弘子 福嶋 寛之	別 編 別 編
46	平成13年5月26日	国立博物館への道 大宰府史跡保存のあゆみ—昭和40年代を中心に—	高倉 洋彰 井上 理香	別 編 別 編
47	平成13年7月28日	大宰府発掘史 —政庁・府庁域を中心として—	石松 好雄	別 編
48	平成13年11月24日	太宰府の山城利用—享和明細記以後の200年— 太宰府市域の戦後の自然災害	小林 茂 磯 望	環 境 環 境
49	平成14年2月2日	古代大宰府の景観 特別史跡「水城」基底部より発掘された植物遺体の同定について	山村 信榮 井上 晋	考 古 環 境

表2 太宰府講演会の記録

回数	年月日	演 題	講 師	分 野
1	昭和63年4月22日	大宰府と防人	長 洋一	古 代
2	昭和63年7月22日	発掘が語る大宰府	高倉 洋彰	考 古
3	昭和63年10月21日	中世成立期の武士団と大宰府	有川 宜博	中 世
4	昭和63年11月25日	中世の大宰府	川添 昭二	中 世
5	平成元年5月26日	太宰府天満宮本殿の形式とその影響	佐藤 正彦	建 築
6	平成元年8月29日	太宰府の遺跡をめぐる自然景観	磯 望	環 境
7	平成元年10月27日	大宰府と万葉—大伴旅人を中心として—	山内 勇哲	文 芸
8	平成2年1月16日	太宰府の大雨乞	木場 明志	民 俗
9	平成2年6月22日	近世の宰府参り	中村 質	近 世
10	平成2年8月24日	福岡の変—明治10年の土族の反乱—	石瀧 豊美	近現代
11	平成2年11月20日	大応国師とその美術—大宰府と日本初期禅宗文化—	渡辺 雄二	美術工芸
12	平成3年2月1日	大宰府と鴻臚館—「蕃客・帰化・饗燕の事」—	田中正日子	古 代
13	平成3年4月26日	九州の国分寺	小田富士雄	考 古
14	平成3年8月13日	横岳崇福寺の歴史	上田 純一	中 世
15	平成3年11月22日	古代都市の幻	澤村 仁	建 築
16	平成4年3月10日	火山灰と風成塵—太宰府への遠来の客—	下山 正一	環 境
17	平成4年6月26日	西鶴と太宰府	白石 悌三	文 芸
18	平成4年9月29日	太宰府の盲僧 —宰府座—	永井 彰子	民 俗
19	平成4年12月8日	享保の飢饉とその影響	柴多 一雄	近 世
20	平成5年3月23日	史料にみる戦前の太宰府の農業	木永 勝也	近現代
21	平成5年5月18日	齋藤秋圃 —その生涯と太宰府ゆかりの作品—	小林 法子	美術工芸
22	平成5年8月11日	朝倉橘広庭宮と大宰府	長 洋一	古 代
23	平成5年11月15日	朝鮮の青銅器、日本の青銅器	武末 純一	考 古
24	平成6年3月10日	鎌倉時代の大宰府	本多 美穂	中 世
25	平成6年5月19日	大宰府の都市空間 —古代から中世へ—	宮本 雅明	建 築
26	平成6年7月27日	太宰府市内に生息する動物—市民アンケートの結果と分析—	渡部 登	環 境
27	平成6年9月28日	太宰府市方言をめぐる	中村 萬里	文 芸
28	平成6年12月14日	太宰府市の宮座	佐々木哲哉	民 俗
29	平成7年3月23日	幕末の福岡藩	梶原 良則	近 世
30	平成7年7月21日	明治期における太宰府の政治状況	有馬 学	近現代
31	平成7年12月15日	壬申の乱と大宰府	亀井輝一郎	古 代
32	平成8年3月15日	年輪から歴史を読む	光谷 拓実	美術工芸
33	平成8年5月29日	古代地方の役所の姿と役割	山中 敏史	考 古
34	平成8年9月26日	南北朝時代太宰府周辺の合戦と地名	岩元 修一	中 世
35	平成9年3月18日	太宰府の景観にみる百年—古地図の研究から—	小林 茂	環 境
36	平成9年4月2日	筑前の在方町 —その成り立ちと空間—	宮本 雅明	建 築
37	平成9年6月12日	幕末期太宰府の和歌活動 —菅原信隆『桂舎集』を中心に—	久保田啓一	文 芸

38	平成9年8月23日	近世における戒壇院支配について	大賀 郁夫	近 世
39	平成9年10月28日	天満宮信仰の盲点 一道真公の最晩年の信仰―	山中 耕作	民 俗
40	平成10年3月26日	昭和30年太宰府町・水城村合併のころ	有吉林之助	近現代
41	平成10年9月19日	『北野天神縁起』について	梶谷 亮治	美術工芸
42	平成10年12月4日	大宰府と万葉集	林田 正男	古 代
43	平成11年3月5日	考古資料からみた太宰府の人々の生活	狭川 真一	考 古
44	平成11年4月28日	鎌倉時代中期の大宰府―大宰府と大友氏―	本多 美穂	中 世
45	平成11年7月24日	棟札と筑前国大工	佐藤 正彦	建 築
46	平成11年9月28日	視覚的資料（写真等）の収集について ―近現代太宰府保存の提言―	赤塚 睦男	文 芸
47	平成11年12月4日	追難の系譜 ―鬼の変容をめぐって―	鈴木 正崇	民 俗
48	平成12年2月5日	豊臣政権下の太宰府天満宮領	松下 志朗	近 世
49	平成12年10月7日	酒の歌 ―大伴旅人・人と作品―	東 茂美	文 芸
50	平成13年11月23日	太宰府の里山・溜池・水田―先人たちの智慧と工夫の発見―	小林 茂	環 境
*1	平成14年11月23日	大宰府研究の基礎をつくった人々	川添 昭二	
		大宰府 ―遺跡の価値と保存の方法―	平野 邦雄	
51	平成16年2月17日	大野城と四王院 ―兜跋毘沙門天（観世音寺）の謎に迫る―	長 洋一	古 代
*2	平成17年6月25日	太宰府市史の編さん・刊行と太宰府学	川添 昭二	
		アジアと太宰府 ―九州国立博物館開設の意義―	高倉 洋彰	
		太宰府の環境変化と人の営み	磯 望	環 境

〔備考〕*1は、太宰府市市制施行20周年記念太宰府講演会、*2は、『太宰府市史』全巻完結記念太宰府講演会。

表3 市史だよりの連載

回数	号	広報No.	タイトル	執筆者	分 野
1	昭和63年4月15日号	401	さいふまいり	森 弘子	民 俗
2	昭和63年5月15日号	403	端午の節句	市史編集委員会	民 俗
3	昭和63年6月15日号	405	吉備真備の絵馬	市史編集委員会	美術工芸
4	昭和63年7月15日号	407	昔の子供たち	市史編集委員会	民 俗
5	昭和63年8月15日号	409	斉藤秋圃	市史編集委員会	美術工芸
6	昭和63年9月15日号	411	紀行文	市史編集委員会	文 芸
7	昭和63年10月15日号	413	大宰府発掘二十年	市史編集委員会	考 古
8	昭和63年11月15日号	415	宮座	市史編集委員会	民 俗
9	昭和63年12月15日号	417	御用日記と門前町	梶原 良則	近 世
10	平成元年2月15日号	420	二日市低地帯と太宰府	下山 正一	環 境
11	平成元年3月15日号	422	太宰治の筆名	長 洋一	古 代
12	平成元年4月15日号	424	太宰府の文芸	山内 勇哲	文 芸
13	平成元年5月15日号	426	苅萱の関	佐伯 弘次	中 世
14	平成元年6月15日号	428	梅仙さん拝山さん親子	八尋 和泉	美術工芸
15	平成元年7月15日号	430	弘化元年の御神幸と大野屋	中村 質	近 世
16	平成元年8月15日号	432	太宰府市の建築の歴史	澤村 仁	建 築
17	平成元年9月15日号	434	太宰府に来たオランダ人	石瀧 豊美	近現代
18	平成元年10月15日号	436	水城のはなし	高倉 洋彰	考 古
19	平成元年11月15日号	438	「大宰府」の訓み	重松 敏彦	古 代
20	平成元年12月15日号	440	清水谷トンネル	市史編集委員会	民 俗
21	平成2年2月15日号	443	福岡都市圏の中の太宰府市	堤 研二	環 境
22	平成2年3月15日号	445	顔回の顔切り	重松 敏彦	古 代
23	平成2年4月15日号	447	「清水記碑」のこと	市史編集委員会	文 芸
24	平成2年5月15日号	449	三笠郡代飯田興秀	佐伯 弘次	中 世
25	平成2年6月15日号	451	鶴栖さん、秀山さん、秀峰さん	八尋 和泉	美術工芸
26	平成2年7月15日号	453	御笠郡明細記	梶原 良則	近 世
27	平成2年8月15日号	455	太宰府の建築 古代から	澤村 仁	建 築
28	平成2年9月15日号	457	筑前地方の自由民権運動と太宰府	有馬 学	近現代
29	平成2年10月15日号	459	宝満山の宝	高倉 洋彰	考 古
30	平成2年11月15日号	461	第一回衆議院議員選挙と御笠郡	御手洗 清	近現代
31	平成2年12月15日号	463	ほん(う)げんぎょう	中島伊佐子	民 俗
32	平成3年2月15日号	466	山野のめぐみ	小林 茂	環 境
33	平成3年3月15日号	468	大宰大貳藤原高遠	重松 敏彦	古 代
34	平成3年4月15日号	470	太宰府と尊氏	福田 智子	文 芸
35	平成3年5月15日号	472	佐賀県光浄寺文書の調査	佐伯 弘次	中 世
36	平成3年6月15日号	474	大応国師像と江月和尚	八尋 和泉	美術工芸
37	平成3年7月15日号	476	牛病治療法について	大賀 郁夫	近 世
38	平成3年8月15日号	478	石造の神社本殿	佐藤 正彦	建 築
39	平成3年9月15日号	480	明治二十二年の町村合併	御手洗 清	近現代
40	平成3年10月15日号	482	吉ヶ浦遺跡出土の絹織物	橋口 達也	考 古
41	平成3年11月15日号	484	史料の収集	重松 敏彦	古 代
42	平成3年12月15日号	486	お正月の食事	森 弘子	民 俗
43	平成4年2月15日号	489	天然記念物の樹木たち	井上 晋	環 境
44	平成4年3月15日号	491	「後家」のこと	大隈 和子	古 代
45	平成4年4月15日号	493	大宰帥の雨乞い	赤塚 睦男	文 芸
46	平成4年5月15日号	495	室町時代の少貳氏と大内氏	佐伯 弘次	中 世

太宰府市史編さんの概要（重松）

47	平成4年6月15日号	497	戒壇院と仏像	八尋 和泉	美術工芸
48	平成4年7月15日号	499	キリシタン禁制と太宰府天満宮	中村 質	近 世
49	平成4年8月15日号	501	太宰府の建築 杜家の住宅	小西龍三郎	建 築
50	平成4年9月15日号	503	観世音寺の鬼瓦	石松 好雄	考 古
51	平成4年10月15日号	505	明治末期の海外出稼ぎ	森山 優	近現代
52	平成4年11月15日号	507	大宰府の木簡	重松 敏彦	古 代
53	平成4年12月15日号	509	えびす七とこ詣り	八尋 千世	民 俗
54	平成5年2月15日号	512	変化する平野の地形	磯 望	環 境
55	平成5年3月15日号	514	観世音寺と大宰府兵馬所	重松 敏彦	古 代
56	平成5年4月15日号	516	藤原為頼と岩淵川	福田 智子	文 芸
57	平成5年5月15日号	518	福井県熊野神社文書の調査	佐伯 弘次	中 世
58	平成5年6月15日号	520	太宰府天満宮境内図と宮曼荼羅	錦織 亮介	美術工芸
59	平成5年7月15日号	522	御笠郡と触	大賀 郁夫	近 世
60	平成5年8月15日号	524	社寺絵画について	澤村 仁	建 築
61	平成5年9月15日号	526	刀伊の入寇	重松 敏彦	古 代
62	平成5年10月15日号	528	寧波の太宰府刻石	高倉 洋彰	考 古
63	平成5年11月15日号	530	大正時代の農業の一こま -農家の副業	木永 勝也	近現代
64	平成5年12月15日号	532	彦山詣りと札うち	森 弘子	民 俗
65	平成6年2月15日号	535	地形と気候	小林 哲夫	環 境
66	平成6年3月15日号	537	純友の乱と大宰府	重松 敏彦	古 代
67	平成6年4月15日号	539	文芸担当からのお願い	赤塚 睦男	文 芸
68	平成6年5月15日号	541	大宰府から博多へ	佐伯 弘次	中 世
69	平成6年6月15日号	543	天神像と禪宗	渡辺 雄二	美術工芸
70	平成6年7月15日号	545	宰府の贋金事件	梶原 良則	近 世
71	平成6年8月15日号	547	大宰府条坊の復元諸説	宮本 雅明	建 築
72	平成6年9月15日号	549	太宰府周辺の医者たち	日比野利信	近現代
73	平成6年10月15日号	551	観世音寺出土の漆器	吉村 靖憲	考 古
74	平成6年11月15日号	553	「太宰府市史」と近世	御厨 義道	近 世
75	平成6年12月15日号	555	昭和初期ごろの太宰府の暦事情	中島伊佐子	民 俗
76	平成7年2月15日号	558	太宰府市の水	神野 健二	環 境
77	平成7年3月15日号	560	大宰府鴻臚館の終末	重松 敏彦	古 代
78	平成7年4月15日号	562	棟の花は、ちりぬべし	山本 呈子	文 芸
79	平成7年5月15日号	564	大宰少貳武藤氏と日宋貿易	佐伯 弘次	中 世
80	平成7年6月15日号	566	北谷地藏尊と太宰府（江戸修理）仏師	八尋 和泉	美術工芸
81	平成7年7月15日号	568	江戸時代の「租税」	御厨 義道	近 世
82	平成7年8月15日号	570	大宰府と条坊制	澤村 仁	建 築
83	平成7年9月15日号	572	佐賀の乱と太宰府地域	日比野利信	近現代
84	平成7年10月15日号	574	焼塩壺と森田さん	高倉 洋彰	考 古
85	平成7年11月15日号	576	「史料」って何？	日比野利信	近現代
86	平成7年12月15日号	578	伝説を辿る	高瀬美代子	民 俗
87	平成8年2月15日号	581	伝統的な環境利用	堤 研二	環 境
88	平成8年3月15日号	583	防人	重松 敏彦	古 代
89	平成8年4月15日号	585	梅から桜へ	松尾セイ子	文 芸
90	平成8年5月15日号	587	太宰府天満宮と対馬公廨	佐伯 弘次	中 世
91	平成8年6月15日号	589	筑前国分寺本尊の謎	八尋 和泉	美術工芸
92	平成8年7月15日号	591	定盤一件	御厨 義道	近 世
93	平成8年8月15日号	593	大宰府南門の復原	澤村 仁	建 築
94	平成8年9月15日号	595	太宰府の「起源」	日比野利信	近現代
95	平成8年10月15日号	597	水城西門跡の調査成果	小田 和利	考 古
96	平成8年11月15日号	599	大宰大貳藤原佐理	重松 敏彦	古 代
97	平成8年12月15日号	601	拝山さん異聞	御厨 義道	近 世
98	平成9年2月15日号	604	100年間の景観変化	小林 茂	環 境
99	平成9年3月15日号	606	大野山	長 洋一	古 代
100	平成9年4月15日号	608	文明開化の和歌	赤塚 睦男	文 芸
101	平成9年5月15日号	610	応仁の乱と大宰府	佐伯 弘次	中 世
102	平成9年6月15日号	612	大宰府仏師の存在	八尋 和泉	美術工芸
103	平成9年7月15日号	614	幻の太宰府町史	梶嶋 政司	近 世
104	平成9年8月15日号	616	寺院の鳥居	澤村 仁	建 築
105	平成9年9月15日号	618	議会事務報告書について	木永 勝也	近現代
106	平成9年10月15日号	620	多胡古麻呂	高倉 洋彰	考 古
107	平成9年11月15日号	622	明治の村の成立	日比野利信	近現代
108	平成9年12月15日号	624	年越し	森 弘子	民 俗
109	平成10年2月15日号	627	太宰府のため池	小林 茂	環 境
110	平成10年3月15日号	629	富人をもって賢者となす	重松 敏彦	古 代
111	平成10年4月15日号	631	太宰府の雪	赤塚 睦男	文 芸
112	平成10年5月15日号	633	新発見の少貳氏関係文書について	佐伯 弘次	中 世
113	平成10年6月15日号	635	太宰府書画堂	八尋 和泉	美術工芸
114	平成10年7月15日号	637	「家来判」について	梶嶋 政司	近 世
115	平成10年8月15日号	639	水城と羅城	澤村 仁	建 築
116	平成10年9月15日号	641	太宰府博覧会	日比野利信	近現代
117	平成10年10月15日号	643	観世音寺の礎礎	高倉 洋彰	考 古
118	平成10年11月15日号	645	高橋鑑種の反乱と天満宮	朱雀 信城	中 世

119	平成10年12月15日号	647	ダブリュウ（水神祭）のこと	中島伊佐子	民俗
120	平成11年2月15日号	650	太宰府市のカエルたち	吉田 博一	環境
121	平成11年3月15日号	652	太宰府の「所司」	重松 敏彦	古代
122	平成11年4月15日号	654	藤原元真と筑紫	福田 智子	文芸
123	平成11年5月15日号	656	太宰府天満宮文書の写本	朱雀 信城	中世
124	平成11年6月15日号	658	豪潮と太宰府	八尋 和泉	美術工芸
125	平成11年7月15日号	660	石碑を見る目	梶嶋 政司	近世
126	平成11年8月15日号	662	天満宮安楽寺の建築	澤村 仁	建築
127	平成11年9月15日号	664	ガイドブックにみる太宰府観光	日比野利信	近現代
128	平成11年10月15日号	666	大宰府政庁正殿跡の発掘調査	石松 好雄	考古
129	平成11年11月15日号	668	太宰府天満宮の杜家	朱雀 信城	中世
130	平成11年12月15日号	670	お取越	八尋 千世	民俗
131	平成12年2月15日号	673	1001年のエピソード	重松 敏彦	古代
132	平成12年3月15日号	675	宝満山の花崗岩	唐木田芳文	環境
133	平成12年4月15日号	677	文道の神様・天神	赤塚 睦男	文芸
134	平成12年5月15日号	679	江戸時代の文化財調査	朱雀 信城	中世
135	平成12年6月15日号	681	“つつじ寺”の太宰府関係遺品	八尋 和泉	美術工芸
136	平成12年7月15日号	683	「白紫紀行」について	梶嶋 政司	近世
137	平成12年8月15日号	685	高鍋日統と水城院	藤岡健太郎	近現代
138	平成12年9月15日号	687	太宰府天満宮本殿の大工たち	佐藤 正彦	建築
139	平成12年10月15日号	689	水城跡木樋の調査	齊部 麻矢	考古
140	平成12年11月15日号	691	木下讃太郎の九州博物館構想	梶嶋 政司	近世
141	平成12年12月15日号	693	梅ヶ枝餅	高瀬美代子	民俗
142	平成13年2月15日号	696	新発見の太宰府天満宮文書について	朱雀 信城	中世
143	平成13年3月15日号	698	張宝高と李延孝	長 洋一	古代
144	平成13年4月15日号	700	太宰府の雪ふたたび	赤塚 睦男	文芸
145	平成13年5月15日号	702	土木費にみる町村役場と大字	日比野利信	近現代
146	平成13年6月15日号	704	渡唐天神 ―中国製の存在と海難お守り―	八尋 和泉	美術工芸
147	平成13年7月15日号	706	天満宮社殿修理	澤村 仁	建築
148	平成13年8月15日号	708	宰府造営奉行 木全藤兵衛考	梶嶋 政司	近世
149	平成13年9月15日号	710	「太宰府市史」環境資料編の紹介	日比野利信	近現代
150	平成13年10月15日号	712	太宰府天満宮の牛玉宝印	朱雀 信城	中世
151	平成13年11月15日号	714	政庁跡出土の元染付水注（八角瓶）	横田賢次郎	考古
152	平成13年12月15日号	716	足焙り	吉留 優子	民俗
153	平成14年2月15日号	719	自然景観と古都の風景	磯 望	環境
154	平成14年3月15日号	721	散在する博多の地名 ―古代―	長 洋一	古代
155	平成14年4月15日号	723	都府楼の瓦	赤塚 睦男	文芸
156	平成14年5月15日号	725	今川了俊のおとしもの	朱雀 信城	中世
157	平成14年6月15日号	727	観世音寺の狛犬	八尋 和泉	美術工芸
158	平成14年7月15日号	729	ある聖観音像について	梶嶋 政司	近世
159	平成14年8月15日号	731	古建築の瓦	澤村 仁	建築
160	平成14年9月15日号	733	戦後における「白村江の戦い」	福嶋 寛之	近現代
161	平成14年10月15日号	735	水城跡で瓦工房発見！？	小田 和利	考古
162	平成14年11月15日号	737	青柳種信と太宰府研究	重松 敏彦	古代
163	平成14年12月15日号	739	まるで美術工芸品のような吊り手水（手洗器）	吉留 優子	民俗
164	平成15年2月15日号	742	対外交渉と文学	重松 敏彦	古代
165	平成15年3月15日号	744	「太宰府－人と自然の風景」展示と図録の出版	磯 望	環境
166	平成15年4月15日号	746	三条実美の太宰府詠	赤塚 睦男	文芸
167	平成15年5月15日号	748	太宰府周辺における伊勢御師の活動	朱雀 信城	中世
168	平成15年6月15日号	750	「源氏物語」と太宰府官人	重松 敏彦	古代
169	平成15年7月15日号	752	太宰府天満宮の服忌令について	梶嶋 政司	近世
170	平成15年8月15日号	754	観世音寺の仏像修理と新納忠之介	八尋 和泉	美術工芸
171	平成15年9月15日号	756	都府楼以前の大宰府	澤村 仁	建築
172	平成15年10月15日号	758	長門国府跡出土の大宰府系瓦	石松 好雄	考古
173	平成15年11月15日号	760	廃止されかけた郵便局	藤岡健太郎	近現代
174	平成15年12月15日号	762	「太宰府市史」古代資料編の紹介	重松 敏彦	古代
175	平成16年2月15日号	765	幸ノ元井手	梶嶋 政司	近世
176	平成16年3月15日号	767	災害の記録が意味するもの	後藤 健介	環境
177	平成16年4月15日号	769	「太宰府市史」別編の刊行	藤岡健太郎	近現代
178	平成16年5月15日号	771	大野城市の三角縁神獣鏡	赤塚 睦男	文芸
179	平成16年6月15日号	773	地方官衙遺跡と出土文字資料	重松 敏彦	古代
180	平成16年7月15日号	775	四つの最福寺（西福寺）	朱雀 信城	中世
181	平成16年8月15日号	777	太宰府天満宮の桜	梶嶋 政司	近世
182	平成16年9月15日号	779	日露戦争と太宰府	藤岡健太郎	近現代
183	平成16年10月15日号	781	国文祭シンポジウム	重松 敏彦	古代
184	平成16年11月15日号	783	安養院について	朱雀 信城	中世
185	平成16年12月15日号	785	宝満山参詣道の普請	梶嶋 政司	近世
186	平成17年2月15日号	788	フトコロの痛い税金の話	藤岡健太郎	近現代
187	平成17年3月15日号	790	大宰府の役割	重松 敏彦	古代
188	平成17年4月15日号	792	モンゴル襲来前夜の大宰府の外交	朱雀 信城	中世
189	平成17年5月15日号	794	宰府代官寺田嘉兵衛	梶嶋 政司	近世
190	平成17年6月15日号	796	知らないことが多すぎる	赤塚 睦男	文芸

太宰府市史編さんの概要（重松）

191	平成17年7月15日号	798	梅楽座の落成	内山 一幸	近現代
192	平成17年8月15日号	800	鴻臚館跡と太宰府	重松 敏彦	古 代
193	平成17年9月15日号	802	趙良弼書状について	朱雀 信城	中 世
194	平成17年10月15日号	804	井上哲次郎と太宰府	内山 一幸	近現代
195	平成17年11月15日号	806	和同開珎と太宰府	重松 敏彦	古 代
196	平成17年12月15日号	808	足利直冬の大宰府入り	朱雀 信城	中 世
197	平成18年2月15日号	811	上野勝從『太宰府考』	重松 敏彦	近 世
198	平成18年3月15日号	813	五卿の従者から明治政府の顯官へ	内山 一幸	近現代
199	平成18年4月15日号	815	大宰権帥源重資	重松 敏彦	古 代
200	平成18年6月1日号	817	市史資料室ができました ―太宰府の未来を見据えて―	重松 敏彦	

表4 市史編さん委員会の記録

回数	開催年月日	主な議題
1	昭和60年3月18日	○辞令交付 ○市史編さん委員会規程及び要綱説明 ○太宰府市史編さん要綱（案）の検討
2	昭和60年3月26日	○太宰府市史編さん要綱 ○太宰府市市史編さん執筆項目
3	昭和60年5月7日	○新委員の紹介 ○副会長の選任 ○執筆項目の検討
4	昭和60年6月17日	○経過説明（5月7日以後） ○概略の執筆項目区分
5	昭和60年9月12日	○編集委員の推薦
6	昭和61年4月10日	○経過説明 ○太宰府市史要綱の改正
7	昭和62年3月25日	○市史編集委員の推薦
8	昭和62年5月29日	○市史編集委員の推薦
9	昭和63年5月24日	○辞令交付（各委員紹介） ○経過報告 ○63年度事業計画
10	— — —	— — —
11	平成元年11月2日	○編集事業の経過報告
12	平成2年7月25日	○顧問・委員の紹介 ○編集事業の経過報告 ○刊行年次計画の変更
13	平成3年2月27日	○編集事業の活動経過 ○出版社選定
14	平成4年3月3日	○平成3年度市史編集委員会の事業経過報告 ○考古、民俗編の編集作業経過
15	平成5年3月24日	○平成4年度市史編集委員会の事業経過報告 ○民俗、建築・美工編の編集作業経過
16	平成5年11月15日	○民俗編の刊行報告 ○編集事業の経過報告 ○刊行年次計画の変更
17	平成7年3月24日	○編集事業の経過報告 ○今後の刊行計画
18	平成8年3月12日	○近世編近刊、および平成8年度の刊行予定 ○自然地理編の編名変更（環境編）
19	平成9年2月26日	○平成8年度市史編集委員会事業の経過報告 ○刊行計画の改定
20	平成10年5月6日	○委嘱状の交付 ○市史編集委員会の事業経過報告 ○今後の刊行計画
21	平成11年2月10日	○編集事業の経過報告 ○近現代編近刊、およびその他の刊行計画
22	平成12年3月27日	○編集事業の経過報告 ○通史編別編の編集 ○収集資料の保存 ○刊行計画の改定
23	平成13年3月29日	○編集事業の経過報告 ○今後の刊行予定 ○「市史資料室（仮称）の設置に関する要望書」提出
24	平成13年10月23日	○編集事業の経過報告 ○環境編の刊行報告 ○刊行計画の改定
25	平成15年2月27日	○平成14年度市史編集委員会の事業経過報告 ○文芸、中世編の刊行報告 ○市制施行20周年記念講演会・特別展示報告 ○古代編の進行状況
26	平成15年12月18日	○編集事業の経過報告 ○市史の事業継続
27	平成18年3月16日	○市史全巻完結報告 ○編さん委員会・編集委員会のこれまでの経過 ○編さん事業の概要

注）第10回編さん委員会については、開催通知、記録等が残っておらず、開催回数に誤認があると思われる。したがって、編さん委員会の開催回数は26回となる。

表5 市史編集委員会の記録

回数	開催年月日	主な議題（報告事項・協議事項）
1	昭和62年4月25日	○辞令交付（任命）
2	昭和62年5月12日	○委員の決定
3	昭和62年6月20日	○辞令交付 ○通史編・資料編の巻構成および編集委員の配置
4	昭和62年9月19日	〔報告〕○嘱託職員の就任・退任 ○編さん事業予算案 ○編さん室の整備状況〔協議〕○市史の編成内容 ○調査予定 ○刊行年次
5	昭和62年10月22日	〔報告〕○配付資料 ○備品の整備状況 ○寄贈市町村史誌の受入状況〔協議〕○広報 ○研究会 ○調査計画
6	昭和63年1月30日	〔報告〕○調査員委嘱 ○編さん室臨時職員採用〔協議〕○予算の執行 ○調査経過・調査計画
7	昭和63年3月25日	〔報告〕○配付資料 ○前回委員会以後の資料調査・会議等〔協議〕○執筆者の委嘱 ○講演会・研究会
8	昭和63年5月7日	〔報告〕○執筆者の委嘱 ○昭和63年度の予算〔協議〕○昭和63年度の調査計画 ○講演会・研究会
9	昭和63年7月16日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○執筆依頼の承諾状況〔協議〕○昭和63年度の調査経過・予定 ○広報関係・研究会
10	昭和63年10月29日	〔報告〕○配付資料 ○編集委員会契約内容変更（補正予算）〔協議〕○資料調査経過
11	平成元年1月14日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動〔協議〕○資料調査等 ○広報・研究会
12	平成元年3月25日	〔報告〕○配付資料 ○平成元年度予算〔協議〕○資料調査 ○執筆要綱 ○広報活動
13	平成元年6月3日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○通史編の目次編成 ○監査委員の設置 ○広報・研究会
14	平成元年7月29日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○目次案（通史編）の検討 ○広報・研究会
15	平成元年10月7日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○通史編目次案（古代・中世）の検討 ○広報・研究会
16	平成2年1月20日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○通史編目次案（近世）の検討 ○広報・研究会

17	平成2年3月24日	〔報告〕○配付資料 ○嘱託増員 ○平成2年度予算〔協議〕○平成元年度活動経過・平成2年度活動計画 ○通史編目次案（近現代）の検討 ○広報・研究会
18	平成2年6月2日	〔報告〕○配付資料 ○委員報酬改定 ○原稿料 ○決算監査〔協議〕○資料調査 ○執筆要項案（通史編）○資料編目次案（民俗、考古）○市史の体裁 ○市史編さん終了後の資料の保存・利用 ○広報・研究会
19	平成2年7月21日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○出版社選定 ○編さん委員会顧問制導入 ○広報・研究会
20	平成2年9月4日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○市史の内容構成（考古、文芸）○出版社選定 ○市史編さん終了後の資料保存・利用 ○広報・研究会
21	平成2年11月17日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○出版社選定 ○原稿料 ○資料保存（施設）○広報・研究会
22	平成3年1月19日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○出版社選定 ○内容構成（文芸）○補正予算 ○文化ふれあい館 ○調査計画書 ○広報・研究会
23	平成3年3月23日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○編集委員の増員、嘱託の交替〔協議〕○平成2年度活動経過・平成3年度活動計画 ○考古、民俗編の編集作業経過 ○文化ふれあい館 ○民俗編における同和問題の取り扱い ○市史の体裁（序文・目次・凡例・後付） ○広報・研究会
24	平成3年5月18日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動 ○辞令交付〔協議〕○資料調査 ○考古、民俗編の編集作業 ○市史の体裁（印刷仕様書） ○広報・研究会
25	平成3年7月20日	〔報告〕○配付資料 ○辞令交付 ○平成2年度決算監査〔協議〕○資料調査 ○考古、民俗編の編集作業 ○建築・美工、古代編執筆要項 ○広報・研究会
26	平成3年9月21日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○資料調査 ○考古、民俗編の編集作業 ○資料編・通史編掲載写真 ○広報・研究会
27	平成3年11月16日	〔報告〕○配付資料 ○撮影希望写真リスト〔協議〕○資料調査 ○考古、民俗編の編集作業 ○考古、建築・美工編における石造物の取り扱い ○広報・研究会
28	平成4年1月18日	〔報告〕○配付資料 ○嘱託の交替〔協議〕○資料調査 ○考古、民俗編の編集作業 ○建築・美工、古代編の内容構成 ○広報・研究会
29	平成4年3月21日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○平成4年度事業予算〔協議〕○平成3年度活動経過・同4年度活動計画 ○考古、民俗編の編集作業 ○民俗編における同和問題の取り扱い ○広報・研究会
30	平成4年5月16日	〔報告〕○配付資料 ○臨時職員増員〔協議〕○考古編刊行に際しての反省事項 ○民俗、建築・美工編の編集作業 ○「資料館」の基本構想 ○資料調査 ○広報・研究会
31	平成4年7月18日	〔報告〕○配付資料 ○市史販売状況〔協議〕○民俗、建築・美工編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
32	平成4年9月5日	〔報告〕○配付資料 ○平成3年度決算監査 ○市史編さん室移転〔協議〕○民俗、建築・美工編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会 ○資料館（文化ふれあい館）設立に関する経過
33	平成4年11月7日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○民俗、建築・美工編の編集作業 ○資料調査 ○文化ふれあい館 ○広報・研究会
34	平成5年1月16日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○民俗、建築・美工編の編集作業 ○古代、中世編の形式統一 ○資料調査 ○広報・研究会
35	平成5年3月27日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○編集委員の交替 ○平成5年度事業予算〔協議〕○平成4年度活動経過・同5年度活動計画 ○民俗、建築・美工編の編集作業 ○広報・研究会
36	平成5年5月15日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動〔協議〕○民俗、建築・美工編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
37	平成5年7月17日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○民俗、建築・美工、古代編の編集作業 ○資料調査 ○文化ふれあい館 ○広報・研究会
38	平成5年9月11日	〔報告〕○委員会遅延（台風のため） ○辞令交付 ○平成4年度決算監査〔協議〕○民俗、建築・美工、古代編の編集作業 ○資料調査 ○文化ふれあい館 ○広報・研究会
39	平成5年11月6日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、古代、中世編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
40	平成6年1月22日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、古代、中世編の編集作業 ○文化ふれあい館 ○広報・研究会
41	平成6年3月26日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動 ○嘱託の交替〔協議〕○建築・美工、古代、中世編の編集作業 ○平成5年度活動経過・同6年度活動計画 ○文化ふれあい館のその後の経過 ○広報・研究会
42	平成6年5月21日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、古代編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
43	平成6年7月16日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、古代編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
44	平成6年9月17日	〔報告〕○配付資料 ○文化ふれあい館〔協議〕○建築・美工、古代編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
45	平成6年11月5日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、古代編の編集作業 ○資料調査 ○広報・研究会
46	平成7年1月21日	〔報告〕○配付資料 ○年表稿本の作成 ○文化ふれあい館〔協議〕○建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○資料調査 ○今後の議題 ○広報・研究会
47	平成7年3月18日	〔報告〕○配付資料 ○平成7年度事業予算〔協議〕○建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○広報・研究会
48	平成7年5月20日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○資料調査○広報・研究会
49	平成7年7月15日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○資料調査○広報 ○研究会のもち方
50	平成7年9月2日	〔報告〕○配付資料 ○文化ふれあい館の経過 ○自然・地理分野編集委員の異動 ○平成6年度決算監査〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○資料調査 ○通史編目次案の再検討 ○広報・研究会
51	平成7年11月4日	〔報告〕○配付資料 ○辞令交付〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編目次案の再検討 ○文化ふれあい館における市史収集資料の取り扱い ○広報
52	平成8年1月20日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編目次案・執筆要項の再検討 ○編さん室移転後の事務処理 ○広報
53	平成8年3月23日	〔報告〕○配付資料 ○編さん室移転 ○編さん委員会の開催 ○平成8年度事業予算〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編目次案の再検討 ○広報
54	平成8年5月18日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動〔協議〕○近世、建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○年表編 ○広報 ＊会議終了後、ふれあい館内視察・市内巡見を実施
55	平成8年7月20日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○年表編 ○広報
56	平成8年9月7日	〔報告〕○配付資料 ○平成7年度決算監査〔協議〕○建築・美工、近現代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編 ○年表編（考古分野） ○広報

太宰府市史編さんの概要（重松）

57	平成8年11月2日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、近現代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○研究会のもち方 ○広報
58	平成9年1月25日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、近現代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編の編集作業 ○編さん室の人員構成
59	平成9年3月29日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○編さん室嘱託人事および増員 ○人事異動 ○川添委員長寄贈資料〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○広報
60	平成9年5月31日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編その他 ○広報
61	平成9年7月19日	〔報告〕○配付資料 ○平成8年度決算監査〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○年表編 ○広報・研究会
62	平成9年9月6日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○編集委員会の体制 ○広報
63	平成9年11月1日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編など ○広報
64	平成10年1月24日	〔報告〕○配付資料 ○編集委員の交代〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編 ○広報
65	平成10年3月28日	〔報告〕○配付資料 ○計報（高橋良平氏、中村賢氏） ○編さん委員会・編集委員会の組織人事〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○広報・研究会
66	平成10年5月16日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○編集委員会人事 ○辞令交付〔協議〕○建築・美工、近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○広報
67	平成10年7月18日	〔報告〕○配付資料 ○平成9年度決算監査 ○建築・美工編の刊行〔協議〕○近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編の刊行計画・目次案 ○広報・研究会
68	平成10年9月12日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編の刊行計画・目次案 ○広報
69	平成10年11月7日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○近現代、古代編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編の刊行計画・目次案 ○執筆要項の改定 ○広報
70	平成11年1月23日	〔報告〕○配付資料 ○近現代資料編の刊行〔協議〕○古代、文芸編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○通史編Ⅲ〈別編〉 ○広報・研究会
71	平成11年3月27日	〔報告〕○配付資料 ○編さん室メールアドレス取得〔協議〕○古代、文芸編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○通史編Ⅲ〈別編〉 ○広報・研究会
72	平成11年5月15日	〔報告〕○配付資料 ○年表編担当編集委員の交代 ○平成10年度決算監査〔協議〕○古代、文芸編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編・年表編 ○通史編Ⅲ〈別編〉 ○広報・研究会
73	平成11年7月17日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動〔協議〕○古代、文芸編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編の編集作業 ○通史編Ⅲ〈別編〉 ○年表編 ○通史編掲載写真 ○広報・研究会
74	平成11年9月25日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○古代、文芸編の編集作業 ○その他の資料編の編集作業 ○通史編の編集作業 ○年表編 ○広報・研究会
75	平成11年11月13日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○古代、中世、環境、文芸編の編集作業 ○通史編の編集作業 ○市史刊行の現状と今後の予定 ○広報・研究会
76	平成12年1月29日	〔報告〕○配付資料 ○市史編さん委員会会長の交代 ○市史刊行状況〔協議〕○環境、文芸、古代、中世編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん終了後の収集史料の保存等 ○広報・研究会
77	平成12年3月25日	〔報告〕○配付資料 ○市の機構改革 ○編集委員の交代〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん終了後の収集史料の保存等 ○広報・研究会
78	平成12年5月20日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催 ○辞令交付 ○古都大宰府保存協会主催特別展「万葉の貴族 大伴旅人展」共催 ○平成11年度決算監査〔協議〕○市史編さん室収集資料の保存・活用 ○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○広報・研究会
79	平成12年7月22日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○広報・研究会
80	平成12年9月16日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○通史編掲載写真の収集 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念行事 ○広報・研究会
81	平成12年11月18日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念共催行事 ○広報・研究会
82	平成13年1月13日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念共催行事 ○広報・研究会
83	平成13年3月31日	〔報告〕○配付資料 ○市長宛「市史資料室（仮）の設置に関する要望書」提出 ○編さん委員会の開催〔協議〕○平成12年度事業経過・同13年度事業計画 ○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市制施行20周年記念共催行事 ○広報・研究会
84	平成13年5月26日	〔報告〕○配付資料 ○平成12年度決算監査〔協議〕○市制施行20周年記念事業 ○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○広報・研究会
85	平成13年7月28日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○通史編掲載写真の収集 ○市制施行20周年記念事業 ○広報・研究会
86	平成13年9月22日	〔報告〕○配付資料 ○市史編さん室のインターネット接続〔協議〕○環境、文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市制施行20周年記念事業 ○在庫の保管場所 ○広報・研究会
87	平成13年11月24日	〔報告〕○配付資料 ○環境資料編刊行 ○編さん委員会の開催〔協議〕○文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念事業 ○広報・研究会
88	平成14年2月2日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念事業 ○広報・研究会
89	平成14年3月30日	〔報告〕○配付資料 ○嘱託職員交代〔協議〕○文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念事業 ○広報・研究会
90	平成14年5月18日	〔報告〕○配付資料 ○平成14年度決算監査〔協議〕○文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○平成14年度事業予算 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念事業 ○広報
91	平成14年7月13日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○来年度およびそれ以降の編集委員会・編さん室の体制 ○市制施行20周年記念事業 ○広報

92	平成14年9月14日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○文芸、中世、古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○市制施行20周年記念事業 ○広報
93	平成14年11月16日	〔報告〕○配付資料 ○文芸、中世資料編刊行〔協議〕○古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○来年度の編さん体制 ○市制施行20周年記念事業 ○市史所蔵資料のデジタル化 ○広報
94	平成15年1月25日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○来年度の編さん体制 ○市制施行20周年記念事業 ○市史所蔵資料のデジタル化
95	平成15年3月27日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催〔協議〕○古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○平成15年度の編さん体制 ○市史所蔵資料のデジタル化 ○広報
96	平成15年5月17日	〔報告〕○配付資料 ○平成14年度決算監査〔協議〕○古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん事業終了後の体制 ○広報
97	平成15年8月2日	〔報告〕○配付資料 ○委員会延期（豪雨災害のため）〔協議〕○古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん事業終了後の体制 ○行政資料（廃棄対象文書）の処理 ○広報
98	平成15年9月20日	〔報告〕○配付資料 ○市の機構改革〔協議〕○古代編の編集作業 ○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん室収集資料の保存 ○広報
①	平成15年10月20日	〔報告〕○古代資料編、通史編・年表編の進捗状況 ○川添委員長・倉元秘書広報課長協議報告〔協議〕○別編の編集作業
99	平成15年11月29日	〔報告〕○配付資料 ○人事異動 ○編集小委員会の開催 ○古代資料編刊行〔協議〕○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん事業終了後の体制 ○広報
100	平成16年1月31日	〔報告〕○配付資料 ○編さん委員会の開催〔協議〕○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん事業終了後の体制 ○九国博準備室要請のマイクロフィルム複写（九州文化史研究施設所蔵宗家判物写）○広報
101	平成16年3月30日	〔報告〕○配付資料 ○通史編別編、年表編刊行〔協議〕○通史編、年表編の編集作業 ○市史編さん事業終了後の体制 ○広報 ○総括
②	平成16年11月9日	〔協議〕○通史編Ⅱにおける同和問題の取り扱い
102	平成17年7月30日	〔報告〕○配付資料 ○嘱託職員の出転 ○全巻完結記念太宰府講演会〔協議〕○平成16年度編さん事業予算・決算、平成17年度予算 ○平成16年度以降の編さん事業報告、市史編さん事業概要（案）○行政資料の整理 ○市史編さん終了後の体制
③	平成17年11月12日	〔報告〕○配付資料〔協議〕○平成17年度決算監査 ○太宰府市史編さんの概要 ○編さん委員会に向けての規則改正 ○編さん事業終了後の事業計画

注）丸囲み数字は小委員会を示す。

表6 市史編さん委員会名簿（編さん終了時、前任者を含む）

役職	氏名	所属	在任期間
会長	今村 覺	前太宰府市助役	昭和60年3月～平成11年12月
会長	井上 保廣	太宰府市助役	平成12年1月～
副会長	高倉 洋彰	太宰府市史編集委員会副委員長	昭和60年6月～
副会長	藤井 功	元九州歴史資料館副館長	昭和60年3月～4月〔死去〕
顧問	有吉 林之助	元太宰府市長	平成10年4月～
顧問	高橋 良平	元九州大学学長	平成2年7月～9年6月〔死去〕
顧問	西高辻 信良	太宰府天満宮宮司	平成2年7月～
委員	有吉 林之助	元太宰府市長	平成2年7月～10年3月
委員	稲積 謙次郎	太宰府市教育委員会委員長	平成10年4月～
委員	井上 正彦	元太宰府天満宮文化研究所顧問	昭和60年3月～平成10年3月〔死去〕
委員	井上 保廣	元総務部長	平成7年6月～11年12月
委員	井本 邦彦	元財政課長・元総務部長	昭和60年3月～61年3月、昭和63年12月～平成5年3月
委員	大江田 安定	元太宰府市議会議員	昭和60年3月～平成2年7月〔死去〕
委員	岡部 茂夫	太宰府市議会議員	平成10年4月～12年1月
委員	川添 昭二	太宰府市史編集委員会委員長	昭和63年5月～
委員	楠林 輝男	元財政課長	昭和61年4月～63年11月〔死去〕
委員	白木 三男	元総務部長	昭和60年3月～63年11月
委員	關 敏治	太宰府市教育委員会教育長	平成13年3月～
委員	武谷 恵美子	筑紫女学園短期大学教授	平成10年4月～
委員	長 洋一	太宰府市史編集委員会委員	平成10年4月～
委員	藤 壽人	元太宰府市教育委員会教育長	昭和60年5月～平成元年6月
委員	中嶋 一男	元太宰府市社会福祉協議会会長	昭和60年3月～平成10年3月
委員	中村 久二	元太宰府町長	昭和60年3月～平成2年2月〔死去〕
委員	中村 實	元太宰府市史編集委員会副委員長	昭和63年5月～平成10年3月〔死去〕
委員	長野 治己	前太宰府市教育委員会教育長	平成元年8月～12年12月
委員	西村 太郎	元太宰府市収入役	昭和60年3月～62年5月
委員	西山 義則	元企画課長・元太宰府市議会議員	昭和60年3月～62年5月、平成12年2月～15年4月
委員	古川 清助	元太宰府市市史編さん室嘱託	昭和60年3月～62年7月
委員	三笥 和男	元総務部長	平成5年4月～7年5月
委員	森 弘子	太宰府市史編集委員会委員	昭和60年3月～
委員	山内 勇哲	太宰府市史編集委員会委員	昭和60年3月～

表7 市史編集委員会名簿（編さん終了時、前任者を含む）

役職	氏名	所属	在任期間
委員長	川添 昭二	九州大学名誉教授	昭和62年4月～
副委員長	高倉 洋彰	西南学院大学教授	昭和62年4月～
副委員長	中村 質	元九州大学名誉教授	昭和62年4月～平成10年3月〔死去〕
委員（文芸）	赤塚 睦男	筑紫女学園大学助教授	平成3年6月～
委員（近現代）	有馬 学	九州大学教授	昭和62年6月～
委員（考古）	石松 好雄	下関市立考古博物館館長	昭和62年6月～
委員（環境）	磯 望	西南学院大学教授	平成5年4月～10年3月、平成12年4月～
委員（近世）	梶原 良則	福岡大学助教授	平成3年4月～
委員（環境）	小林 茂	大阪大学教授	昭和62年6月～平成5年3月、平成7年10月～
委員（中世）	佐伯 弘次	九州大学助教授	昭和62年6月～
委員（民俗）	佐々木哲哉	元西南学院大学教授	昭和62年6月～
委員（建築）	澤村 仁	元九州芸術工科大学教授	昭和62年6月～
委員（環境）	下山 正一	九州大学助手	平成10年4月～12年3月
委員（古代）	長 洋一	元西南学院大学教授	昭和62年4月～
委員（民俗）	森 弘子	福岡県文化財保護審議会専門委員	昭和62年4月～
委員（美術工芸）	八尋 和泉	元別府大学教授	昭和62年4月～
委員（文芸）	山内 勇哲	元筑紫女学園大学教授	昭和62年4月～

表8 事務局名簿（編さん終了時、前任者を含む）

役 職	氏 名	在任期間	役 職	氏 名	在任期間
企画課長	西山 義則	昭和59年10月～62年5月	広聴広報係	岡部 大治	平成9年4月～
企画課長	上 疆	昭和62年6月～63年11月	広聴広報係	田中 縁	平成11年7月～17年3月
企画課長	石橋 正直	昭和63年12月～平成5年3月	編さん室囑託	古川 清助	昭和60年1月～62年7月
企画課長	松島 幹彦	平成5年4月～6年3月	編さん室囑託	梶原 良則	昭和62年8月～平成3年3月
企画課長	平島 鉄信	平成6年4月～平成8年3月	編さん室囑託	本多 美穂	昭和62年9月～平成元年3月
企画課長	松田 幸夫	平成8年4月～13年6月	編さん室囑託	重松 敏彦	平成元年4月～
企画課長	清本 保正	平成13年7月～15年9月	編さん室囑託	御手洗 清	平成2年4月～3年11月
秘書広報課長	倉元 信次	平成15年10月～16年3月	編さん室囑託	大賀 郁夫	平成3年4月～6年3月
秘書広報課長	和田 有司	平成16年4月～	編さん室囑託	森山 優	平成4年1月～6年3月
広聴広報係長	木村ミサヨ	昭和60年1月～平成3年3月	編さん室囑託	御厨 義道	平成6年4月～9年3月
広聴広報係長	斎藤 正信	平成3年4月～9年3月	編さん室囑託	日比野利信	平成6年4月～14年3月
広聴広報係長	青柳 正道	平成9年4月～17年3月	編さん室囑託	梶嶋 政司	平成9年4月～17年3月
広聴広報係長	小嶋 禎二	平成17年4月～	編さん室囑託	朱雀 信城	平成9年4月～
広聴広報係	宮原広富美	昭和56年11月～63年11月	編さん室囑託	藤岡健太郎	平成14年4月～16年12月
広聴広報係	百田 繁俊	昭和63年12月～平成9年3月	編さん室囑託	内山 一幸	平成17年1月～
広聴広報係	斎藤 康子	平成3年4月～7年5月	編さん室臨時職員	鮫島貴美子	昭和63年1月～平成16年3月
広聴広報係	渡辺美知子	平成7年6月～11年6月	編さん室臨時職員	桑野 光子	平成4年4月～16年3月

表9 市史執筆者一覧（巻別、50音順）

巻	執筆者氏名
考古資料編	赤司善彦、石松好雄、石丸洋、緒方俊輔、城戸康利、栗原和彦、小西信二、狭川真一、杉山洋、高倉洋彰、高橋章、田中良之、土田充義、中島恒次郎、橋口達也、森田勉、山村信榮、山本信夫、横田賢次郎、吉村靖徳 計20名
民俗資料編	稲田和子、井ノ口妙子、今泉美子、岩崎則子、梅野祥子、大隈和子、開田智恵、加藤史朗、坂口繁好、坂本亀雄、佐々木哲哉、鮫島貴美子、陶山雪代、関久江、関陽子、高瀬美代子、中島伊佐子、永田道子、中村萬里、西住三恵子、八谷知子、藤川理恵、松尾淳子、宮崎由季、村田勝志、森弘子、八尋千世、由比章祐、和久田博子 計29名
建築・美術工芸資料編	（建築）包清博之、小西龍三郎、佐藤正彦、澤村仁、宮本雅明（美術工芸）宣島秀溪、小林法子、狭川真一、田鍋隆男、錦織亮介、橋富博喜、八尋和泉、渡辺雄二 計13名
古代資料編	大隈和子、亀井輝一郎、倉住靖彦、坂上康俊、重松敏彦、田中正日子、長洋一、原田諭、松木俊暁、松崎英一、森哲也 計11名
中世資料編	有川宜博、岩元修一、上田純一、佐伯弘次、朱雀信城、本多美穂 計6名
近世資料編	大賀郁夫、梶原良則、柴多一雄、中村質、松下志朗、御厨義道 計6名
近現代資料編	有馬学、石瀧豊美、黒木彬文、木永勝也、小西秀隆、野口文、林慶太、平井一臣、御手洗清、森山優 計10名
文芸資料編	赤塚睦男、板坂耀子、大隈和子、久保田啓一、白石悌三、田坂順子、長尾直茂、南里一郎、福田智子、森弘子、山内勇哲 計11名
環境資料編	磯望、井上晋、加賀康治、唐木田芳文、小林茂、小林哲夫、駕洪、下山正一、白石哲、神野健二、土谷光憲、堤研二、林静夫、吉田博一、渡部登 計15名
通史編Ⅰ	石松好雄、磯望、井上晋、小田富士雄、亀井輝一郎、唐木田芳文、倉住靖彦、後藤健介、小林茂、小林哲夫、坂上康俊、狭川真一、重松敏彦、駕洪、下山正一、白石哲、神野健二、宗建郎、高倉洋彰、田中正日子、田中良之、土谷光憲、長洋一、西丸妙子、林田正男、原田諭、日比野利信、森弘子、山村信榮、横田賢次郎、吉田博一、渡部登 計32名
通史編Ⅱ	有川宜博、板坂耀子、井上信正、今井さつき、岩崎義則、岩元修一、上田純一、大賀郁夫、梶嶋政司、梶原良則、城戸康利、佐伯弘次、柴多一雄、朱雀信城、中島恒次郎、本多美穂、松下志朗、御厨義道、山村信榮、山本信夫 計20名
通史編Ⅲ	有馬学、石瀧豊美、木永勝也、黒木彬文、小西秀隆、宗建郎、堤研二、野口文、日比野利信、平井一臣、藤岡健太郎、森山優 計12名
通史編別編	有馬学、石松好雄、井上理香、川添昭二、重松敏彦、高倉洋彰、堤研二、野口文、日比野利信、福嶋寛之、藤岡健太郎、森弘子 計12名

表10 市史民俗資料編調査員・話者一覧

調査員 *50音順 *敬称略	秋吉須和子、稲田和子、今泉美子、岩崎則子、開田智恵、加藤史朗、木村明敏、木部吉輝、栗宏、古賀謹二、坂口繁好、坂本亀雄、佐々木哲哉、柴田ヨシエ、末岡ヤエ子、陶山雪代、関久江、高瀬美代子、田中美津子、鶴田アヤ子、道満俊子、中川豊子、中島伊佐子、中村順子、西住三恵子、橋本幸子、八谷知子、藤田百合子、藤村宗軌、布施志乃夫、松尾満子、三木春代子、三井茂生、村上隆亮、森弘子、安武正美、安元博子、八尋千世、山田光夫、和久田博子、渡部弘
話者 *50音順 *（ ）内は 生年	〈ア〉 青柳初雄（大正5）、青柳チカエ（大正7）、浅川キミヨ（大正2）、有岡金光（大正6）、有岡美智子（大正4）、有岡ハスエ（明治39）、有岡ハツ（明治41）、池田昇（大正6）、池本栄（大正2）、市川英治（昭和6）、市川恭介（昭和12）、伊藤一成（明治43）、伊藤熊男（明治44）、伊藤武雄（明治45）、伊藤敬次郎（大正7）、伊藤博輔（大正11）、井上アサノ（大正5）、井上トシエ（大正13）、井上トミ（明治31）、井上綾子（昭和4）、井上和代（昭和9）、井上昭（昭和11）、井上正彦（明治40）、今村兎佐吉（大正5）、入江三郎（明治39）、上田正雄（大正2）、牛原ヲチカ（明治44）、梅田タニ（大正8）、大江田安定（大正9）、大賀雄七（明治44）、大田フジエ（明治42）、大田為安（明治42）、大田金満（大正5）、大田タマ（大正8）、大田清人（大正14）、大田八郎（大正14）、大田ミヨ子（大正14）、大田キヌコ（大正2）、大田保（大正6）、太田絹江（昭和11）、大谷チヨコ（明治43）、大谷儀郎（大正1）、大塚信子（明治41）、大西トメヨ（大正6）、大庭日佐彦（大正10）、岡崎ツチエ（昭和12）、岡本藤吉（大正7）、鬼木トキラ（明治35） 〈カ〉 加茂怡婦（明治38）、川辺善郎（明治38）、川村次雄（明治42）、菊武アサコ（大正7）、菊武岩次郎（明治43）、菊武賢太郎（明治28）、菊武広吉（明治42）、菊武セツ（大正6）、菊武チカラ（明治37）、菊武トミ（明治41）、菊武マサノ（明治42）、城戸市郎（明治39）、城戸菊枝（大正4）、北橋トヨ子（明治40）、木原熊夫（明治44）、木村明敏（大正2）、木村アサ江（明治37）、木村岩雄（大正14）、木村金三郎（明治37）、木村シズ子（明治41）、木村スミ（大正8）、木村竹雄（明治39）、木村藤策（明治43）、木村巴（大正6）、木村政実（大正3）、木村マツエ（大正5）、木村猷亮（明治36）、木本君子（大正8）、木本金蔵（明治39）、木本源四郎（明治38）、木本サナエ（明治42）、楠林タケヲ（大正2）、楠林政勝（大正3）、楠林与志夫（大正13）、栗栖勝枝（大正10）、栗原孫一郎（大正4）、児島貞全（昭和5）、児島チグサ（昭和7）、児島チズル（大正15）、小林寅之助（明治39）、小谷キクエ（明治40）、小宮兼雄（明治45）、小宮俊光（昭和10）、小宮ミチ子（大正10）、権藤喜代志（大正9、筑後市在住） 〈サ〉 斎田克彦（大正12）、斎田千枝（大正15）、斎藤サト（明治34）、斎藤徳之助（明治34）、斎藤久茂（大正6）、斎藤マツ（明治36）、斎藤陸男（明治43）、斎藤レイ（明治35）、佐伯スギ（大正4）、佐伯義勝（大正3）、座親玄晃（大正13）、座親美代子（大正14）、酒井吉春（明治45）、桜井尚（大正8）、佐々木タツ（明治36）、佐々木福寿（大正13）、佐藤シヲ（明治39）、佐藤寛治（明治32）、佐藤ヨシ子（大正10）、沢原義夫（明治38）、椎木弥一（大正12）、篠原常季（明治40）、柴田国広（大正14）、島津タケノ（大正4）、庄山正門（大正11）、白石徳美（明治45）、白石哲子（大正7）、調義人（明治45）、白水主巳（大正9）、新飼ナミ（明治36）、杉村泰（大正12）、陶山岩雄（大正5）、陶山誠（大正6）、関ハル（明治36）、関ヨシエ（大正6）、添田春代（明治41）、添田清隆（昭和12）、添田ヨシ（明治34） 〈タ〉 高田ツチエ（昭和3）、高田トミヨ（大正1）、高鍋鉄雄（大正7）、高取ヒロヨ（明治37）、高橋カ子ヨ（大正2）、竹森直次郎（明治33）、立石正典（昭和15）、田中ラスキ（明治39）、田中太郎（明治43）、田中ハルコ（大正6）、田中ヒデ（大正3）、田中フサ子（大正3）、田中フデ（大正7）、谷川タケ（明治36）、谷口オエ（大正2）、谷口ハナ子（大正12）、田原登（大正4）、手島重行（大正10）、藤ハルエ（大正3）、徳永美代子（昭和3）、富田幹夫（大正6）、友田シズ子（大正4）、島海正喜（明治44）、島飼義宏（明治45） 〈ナ〉 長尾小糸（大正5）、中神団之助（大正7）、中島秀雄（明治30）、中島ハツメ（明治33）、中島カツ（明治37）、中島勝之（大正13）、中島キクノ（明治36）、中島猪象（明治42）、中島一男（大正4）、中島政俊（大正12）、永田仁助（明治40）、永田菊枝（大正6）、中原伸太郎（明治43）、中村イウエ（大正5）、中村栄一（大正10）、中村久二（明治28）、中村利郎（大正1）、中村豊（大正6）、西田亀雄（明治37）、西山権吾（大正8）、西山源太郎（大正11）、西山繁（大正13）、西山一敏（昭和16）、野田マツエ（明治38） 〈ハ〉 萩尾伝（明治43）、萩尾トシ子（大正1）、萩尾鹿夫（大正7）、萩尾正憲（昭和5）、萩尾与孝（昭和18）、土師キミ（明治38）、花田菊次郎（大正3）、花田正義（大正13）、原金次郎（明治37）、原徳次（明治40）、原マサエ（明治44）、原野イト（明治38）、原野虎雄（明治40）、原野三太郎（明治40）、平井チトセ（大正4）、平川農吾（明治41）、平島シゲ子（明治45）、平島ツルノ（明治37）、平田菊代（大正7）、福島嘉武（大正14）、福田モト（明治44）、不二川澄子（明治40）、古川啓蔵（明治40）、古川壽（明治37）、古川マヌエ（明治43）、古川光雄（大正14）、古城戸善作（明治40）、古城戸茂三（大正5）、帆足津盛（大正14） 〈マ〉 前田利郎（大正1）、益永富子（大正12）、松尾キヨ（明治32）、松尾佐平（明治43）、松尾スミエ（大正6）、松尾昇（大正10）、松崎アイ（明治34）、松島吉五郎（大正14）、松島貞士（大正5）、松島シゲ（明治38）、松島シズヨ（明治43）、松島関次郎（明治36）、松島孝己（昭和4）、松島千代（大正7）、松島利太（大正6）、松島立造（大正10）、松田アサ子（明治44）、松田シメ（明治38）、松田信子（昭和24）、松田ハルエ（大正2）、松田春太郎（明治45）、松田正秀（大正9）、松永タキ（明治42）、松本正人（大正15）、水城義之（大正11）、箕原卯七郎（明治31）、箕原ミ子（明治33）、箕原義己（大正5）、箕原義尊（大正12）、宮田ナツキ（大正2）、宮原岩次郎（昭和4）、宮原亀三郎（明治33）、宮原堤（昭和12）、宮原ヨシノ（明治41）、宮原ナカ（明治44）、宮原正純（大正13）、宮原雅則（昭和3）、宮本文子（明治43）、三宅浪江（明治37）、宮成勝朗（大正4）、三好三栄（明治41）、三好菊枝（大正4）、武藤益重（明治30）、武藤ハルエ（明治36）、武藤カメ（明治41）、武藤立身（大正6）、武藤久満（大正9）、武藤美津代（昭和5）、武藤和（昭和7）、本岡栄助（明治37）、本岡清治（大正13）、本岡シズヨ（大正5）、百田賢祐（昭和8）、百田ヤナ子（昭和7）、森正彦（大正3）、森田タツ（昭和2）、森田徳松（大正13）、森田一二三（大正12）、森田義光（明治44）、森山キクエ（大正2） 〈ヤ〉 安河初音（大正）、安河正治（大正3）、安恒清左エ門（大正6）、安恒篤（大正13）、矢野静江（明治41）、八尋千世（大正14）、八尋ノブ（明治32）、山内巳熊（明治39）、山内マサヨ（大正6）、山下キクノ（大正2）、山本藤太郎（大正10）、山田益枝（大正1）、吉鹿デル（明治36）、吉鹿敏行（大正15）、吉田岩雄（大正10）、吉田モモ江（明治44）、吉田ミサオ（大正6）、吉村スミ（大正2）、吉塚タマキ（大正12）、吉原猛（大正3） 〈ラ〉 力丸ヨシ（大正2）、力丸コフジ（明治42）、力丸チトセ（大正1）、力丸ツエ（大正4）、力丸実利（大正9）、力丸八百子（大正12）、力丸良三郎（大正5） 〈ワ〉 和田キヨ（明治7）